

ISSN1341-397X

年 報

平成26年度

平成27年5月

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター

序

山形県埋蔵文化財センターは、平成5年に財団法人として創設以来、また平成24年からは公益財団法人として、関係諸機関の御支援・御協力をいただきながら取り組みを進めてまいりました。本年度における当センターの事業については、計画した事業のすべてについて円滑に実施することができました。

その概要について申し上げますと、はじめに、調査事業においては、延べ6遺跡の発掘調査と、延べ20遺跡の報告書作成のための整理作業を実施し、9冊の発掘調査報告書を刊行いたしました。本県における近年の発掘調査の傾向は、県公共事業の減少が引き続き見られ、国による新直轄事業の高速交通網整備に伴う事業もピークを過ぎたことから、今後予想される高速道路の県境部分の整備や県の公共事業等の事業量を的確に把握しつつ、調査体制の整備に努めていかなければなりません。今後とも、責任ある発掘調査を基本とした調査研究に取り組んでまいります。

次に、普及啓発事業につきましては、埋蔵文化財保護の重要性の周知や、埋蔵文化財を通して古代の人との心の交流の場を県民の皆さんに提供するという基本姿勢のもとに、ホームページでの情報発信や調査遺跡における発掘調査説明会の開催、広報誌「埋文やまがた」の刊行などを通して、埋蔵文化財の調査研究の成果を県民の皆さまにお知らせしてまいりました。今年度も普及啓発事業実行委員が中心となり、さまざまな普及啓発事業を計画、実施してまいりました。

中でも、遺跡発掘体験、体験講座、遺跡見学と3回にわたり開催した「ふるさと考古学講座」では、考古学の面白さや先人の知恵や工夫に触れる機会を持つことができ、多数の参加者の方々から満足いく内容であったという声をいただくことができました。特に夏に実施した体験講座は、上山城管理公社との共催でおこなったもので、特別展示もあわせて実施され、好評を得ることができました。平成20年度から開催している「山形県埋蔵文化財センター参観デー」は、中山地区に移転後2回目ということで、より内容を充実させながら、特別展示、センターの業務内容の紹介、勾玉作り、整理作業などの考古学体験等を実施したところ、昨年を上回る来場者を得ることができました。

また、山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館との共同展示や、ゆめりあ・鶴岡市櫛弓公民館・遊学館・山形県障がい者保養所東紅苑での「出前展示」を行い、県民の皆さんに出土品を公開し、当センターの事業への理解や文化財保護の重要性について広く普及を図ったところです。さらに、学校現場からの依頼を受けた「出前授業」は26校で実施したほか、職員を派遣しての講演や調査研究発表等を実施してまいりました。

これからも「公益」という言葉の重みを職員一人ひとりが胸に刻み、次世代を担う子供達に地域の伝統文化の大切さを伝えるため、あるいは誇りと自信の持てる地域づくりの一助とするため、さまざまな機会を活用して、県民共有の文化遺産としての価値ある埋蔵文化財を後世に伝えて行けるよう、職員一同、一層研鑽を重ねていく所存であります。

平成27年3月31日

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
理事長 菅野 滋

目 次

I. 管理運営概要

1. 沿 革	3
2. 組 織	
(1) 役員及び評議員	3
(2) 職制及び人員	4
(3) 組 織	4
(4) 職 員	5
3. 施 設	6

II. 事業概要

1. 調査業務	7
(1) 調査遺跡一覧	8
(2) 調査遺跡の概要	
羽黒神社西遺跡	10
清水遺跡 第7次・第8次	14
八幡一遺跡	20
山形城三の丸跡 第14次	24
山形城三の丸跡 第15次	28
2. 普及・啓発・研究等業務	
(1) 研修等	
①全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業への派遣	32
②埋蔵文化財担当者専門研修への派遣	32
(2) 普及啓発	
①普及啓発実行委員	32
②センター公開事業	33
③ふるさと考古学講座	34
④研修講座	34
⑤外部展示	35
⑥学校への協力	36
⑦来所者	37
⑧調査説明会	38
⑨職員派遣等	39
⑩資料貸出	40
⑪資料掲載許可	41
⑫出版物	41
⑬ホームページ	42
(3) 情報処理	
収蔵図書データベース	42

I 管理運営概要

1. 沿革

山形県には、土地に埋蔵された埋蔵文化財や史跡、有形文化財、民俗文化財などが数多く残されています。これらの文化財は、長い歴史の中で生まれ、育まれ、そして今日まで守り伝えられてきた貴重な県民の文化遺産であり、これを保護・活用し、次世代に確実に継承していくことが大切です。

平成 16 年に策定された第 5 次山形県教育振興計画では、「いのち」、「まなび」、「かかわり」の三つがキーワードとなっています。埋蔵文化財については、広い「かかわり」の中で、社会をつくるという基本方針のもと、「感性あふれる地域文化の創造」という視点から、保護と活用にあたることとされています。

平成 5 年 4 月に、埋蔵文化財の保護と県土の開発を両立させて調和を図るため、山形県の出資によって「財団法人山形県埋蔵文化財センター」が設立され、平成 24 年度には公益財団法人に移行しました。当センターでは、埋蔵文化財の調査研究を通じて、県民の文化生活の向上と地域文化の振興に寄与することを目的として、

1. 県内遺跡等埋蔵文化財の調査研究
2. 埋蔵文化財の発掘調査
3. 埋蔵文化財の活用と保護思想の普及

の三つを基本とした各種事業を推進しております。

近年は埋蔵文化財の教育的価値を認識してもらう視点に立って、主に「発掘調査速報会」や「ホームページによる情報提供」、「出前授業」、「外部展示」などの普及啓発活動についても力を注いでおります。

2. 組織

(1) 役員及び評議員

役員

理事長	菅野 滋	山形県教育委員会教育長（平成 25 年 4 月 1 日就任）
専務理事	三浦 秋夫	財団常勤役員
理事	佐藤 鎮雄	前 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 館長
理事	佐藤 禎宏	山形考古学会 会長
理事	松田 洋一	公益財団法人山形県生涯学習文化財団 専務理事
理事	渡邊 弘明	公益社団法人山形県私立学校総連合会 常務理事
理事	山川 秀秋	山形県教育庁文化財・生涯学習課 課長
監事	柳野 哲郎	税理士有資格者
監事	荒木 歩	山形県教育庁総務課 課長

評議員	長澤 正機	最上地域史研究会 理事
評議員	小野 忍	酒田市文化財保護推進員
評議員	角屋由美子	公益財団法人米沢上杉文化振興財団 学芸主査
評議員	鈴木 恒雄	元 特殊法人山形県信用保証協会 専務理事
評議員	佐藤 庄一	東北芸術工科大学 非常勤講師
評議員	菅井 時弘	山形県県土整備部道路課 課長
評議員	山平 吉弘	山形県農林水産部農村整備課 農山村整備主幹

(2) 職制及び人員

事務局長	1名
課長	3名
課長補佐	1名
係長	2名
専門調査研究員	3名
主任調査研究員	5名
調査研究員	11名
調査員	11名
事務員	4名
計	41名

(3) 組織

役員（理事会）

理事長（非常勤） ——— 専務理事（常勤）

職員（事務局）

事務局長

総務課

8名

企画情報室

4名(内兼務4名)

他に県職員駐在1名)

整理課

13名

調査課

20名

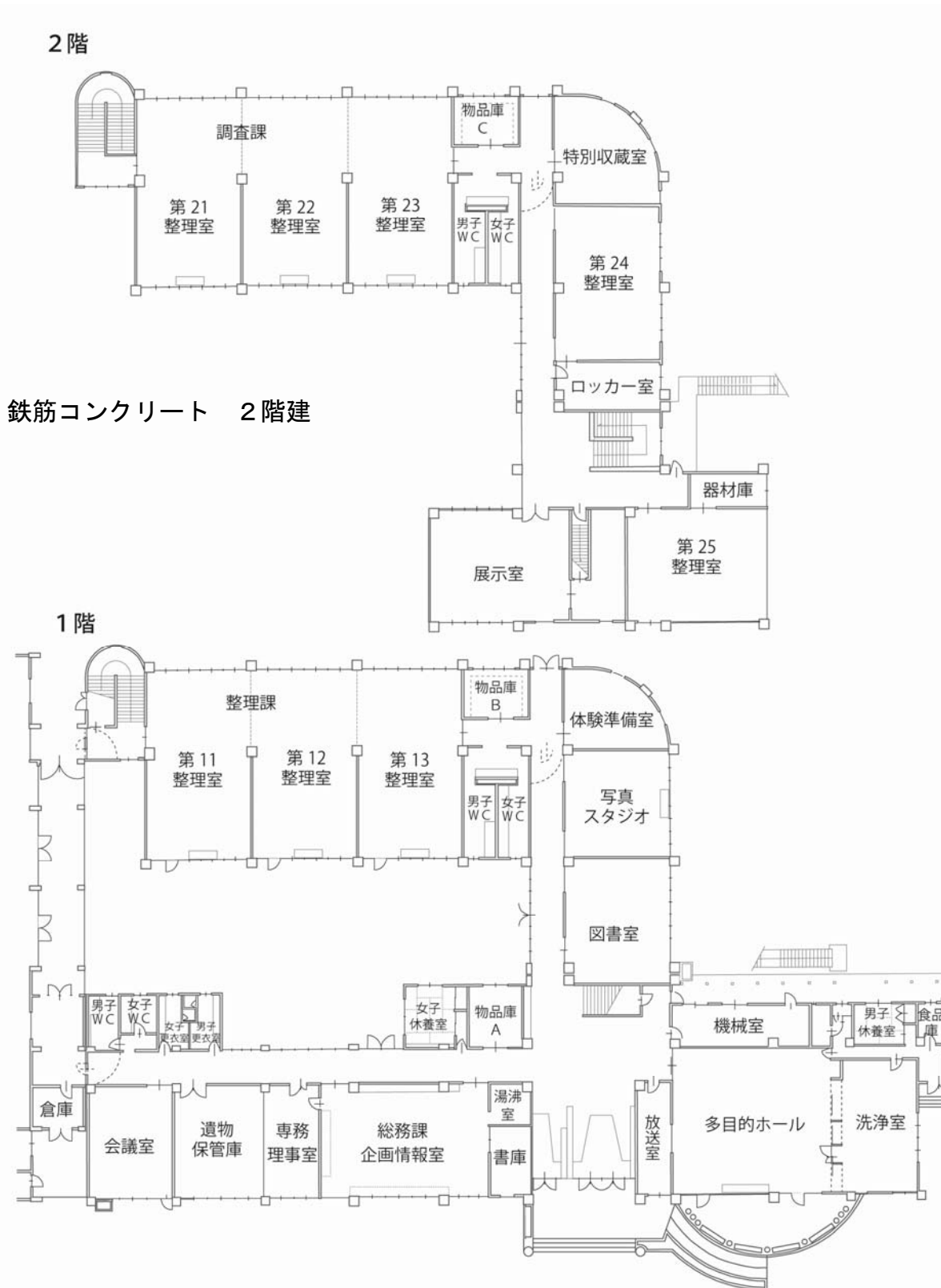
(4)職 員

課 名	職 名	氏 名	所 属
総 務 課	事務局長	小笠原正道	
	総務課長(兼)企画情報室長	黒坂 雅人	財団職員
	総務係長	高桑 弘美	財団職員
	課付調査研究員	天本 昌希	財団職員
	事務員	渡邊 睦子	
	事務員	中川未来絵	
	事務員	林 浩子	
	事務員	樋口 愛美	
	事務員	坂井 裕美	(平成26年 4月退職)
	事務員	大川 洋美	(平成26年10月退職)
企画情報室	駐在(埋蔵文化財調査研究員)	(向田 明夫)	県教育職派遣(文化財・生涯学習課)
整 理 課	課 長	伊藤 邦弘	財団職員
	専門調査研究員	齊藤 主税	財団職員
	主任調査研究員	植松 暁彦	財団職員
	主任調査研究員	菅原 哲文	財団職員
	主任調査研究員	高桑 登	財団職員
	調査研究員	菊池 玄輝	財団職員
	調査研究員	草野 潤平	財団職員
	調査研究員	渡辺 和行	財団職員
	調査員	五十嵐 萌	
	調査員	後藤枝里子	
	調査員	安部 将平	
	調査員	山田めぐみ	
	調査員	岩崎 恒平	
	調 査 課	課 長	斉藤 敏行
課長補佐		須賀井新人	財団職員
専門調査研究員		氏家 信行	財団職員
専門調査研究員		小林 圭一	財団職員
企画調整係長		原田 英明	財団職員
主任調査研究員		齋藤 健	財団職員
主任調査研究員		水戸部秀樹	財団職員
調査研究員		大場 正善	財団職員
調査研究員		川崎 康永	県教育職派遣
調査研究員		小笠原伊之	県教育職派遣
調査研究員		長谷部 寛	県教育職派遣
調査研究員		尾形 知哉	県教育職派遣
調査研究員		東海林弘和	県教育職派遣
調査研究員		市川 光紀	県教育職派遣
調査員		高木 茜	
調査員		高柳 俊輔	
調査員		渡邊 安奈	
調査員		板橋 龍	
調査員	森谷 康平		
調査員	阿部 明彦		

3. 施設

公益財団法人山形県埋蔵文化財センターは、平成24年11月末まで、山形県上市市弁天二丁目15番1号にて業務を行ってきたが、耐震構造上の問題と施設の老朽化のため、同年12月1日より、山形県上市市中山字壁屋敷5608番地に移転した。

現在当所の施設は、以下の通りとなる。



II 事業概要

1. 調査業務

平成26年度は、国土交通省および山形県から委託を受け、道路建設に先だつての発掘調査と整理作業を実施しました。

発掘調査は延べ6遺跡について行い、調査面積は24,773㎡になります。出土品は土器等668箱が出土文化財の認定を受けました。

報告書作成のための整理作業は延べ20遺跡について実施し、そのうち11遺跡9冊の発掘調査報告書を刊行しました。

平成26年度 発掘調査遺跡

- 1 ^{しず} 清水遺跡(第7・8次)
- 2 ^{はぐるじんじゃにし} 羽黒神社西遺跡
- 3 ^{やまがたじょう} 山形城三の丸跡(第14・15次)
- 4 ^{やわたいち} 八幡一遺跡



※本書中の「調査遺跡の概要」の記述内容は概要の報告であり、発掘調査報告書の刊行をもって本報告となります。

(1) 調査遺跡一覧

NO.	遺跡名	所在地	主な時代	遺跡の種別	調査期間
1	清水遺跡(第7次)	村山市	縄文・奈良・平安	集落跡	6月2日～12月3日
2	清水遺跡(第8次)				
3	羽黒神社西遺跡	村山市	縄文	集落跡	5月19日～11月20日
4	山形城三の丸跡(第14次)	山形市	奈良・平安・中世・近世	城館跡	5月20日～11月28日
5	山形城三の丸跡(第15次)	山形市	奈良・平安・中世・近世	城館跡・集落跡	6月2日～12月5日
6	八幡一遺跡	川西町	奈良・平安	集落跡	5月20日～12月19日
7	道出遺跡(第1次) 道出遺跡(第2次)	村山市	縄文	散布地	
8	馳上遺跡(第2~4・6次)	米沢市	古墳～中世	集落跡	
9	西谷地b遺跡(第1・2次)	米沢市	奈良・平安・中世	集落跡	
10	沼袋遺跡	東根市	奈良・平安・中世	集落跡	
11	八反遺跡(第1~3次)	東根市	古墳・奈良・平安・中世	集落跡・墓跡	
12	蟬田遺跡(第1・2次)	村山市	平安・近現代	集落跡	
13	田向遺跡(1・2次)	村山市	奈良・平安	集落跡	
14	田向2遺跡(1・2次)	村山市	奈良・平安	集落跡	
15	経塚森遺跡	村山市	平安	集落跡	
16	清水西遺跡	村山市	旧石器・縄文・平安	集落跡	
17	沼田1遺跡	村山市	縄文・平安	集落跡	
18	沼田2遺跡	村山市	縄文・平安	集落跡	
19	元宿北遺跡	川西町	奈良・平安・中世	集落跡	

調査面積 ：平方m	文化財認 定数：箱	起因事業<委託者>	業務内容			調査経費 ：円
			発掘	整理	報告書	
1,100		東北中央道（東根～尾花沢）〈国土交通省〉	○	○	—	20,748,500
3,100	24	一般県道村山大石田線村山北I.C.〈県土整備部〉	○	○	—	54,440,400
4,300	410	東北中央道（東根～尾花沢）〈国土交通省〉	○	○	—	80,225,000
4,500	52	一般国道112号霞城改良事業〈国土交通省〉	○	○	—	86,975,000
1,873	62	山形広域都市計画道路事業3・2・5号旅籠町八日町線 〈県土整備部〉	○	○	—	57,622,800
9,900	120	一般国道113号梨郷道路事業〈国土交通省〉	○	○	—	105,780,500
		東北中央道（東根～尾花沢）〈国土交通省〉				9,492,800
		一般県道大石田土生田線村山大石田I.C.〈県土整備部〉	—	○	○	3,560,100
		東北中央道（米沢～米沢北）〈国土交通省〉	—	○	—	34,914,700
		東北中央道（米沢～米沢北）〈国土交通省〉	—	○	○	7,714,200
		東北中央道（東根～尾花沢）〈国土交通省〉	—	○	○	14,780,000
		東北中央道（東根～尾花沢）〈国土交通省〉	—	○	—	49,878,800
		東北中央道（東根～尾花沢）〈国土交通省〉	—	○	—	29,948,000
		東北中央道（東根～尾花沢）〈国土交通省〉	—	○	○	
		東北中央道（東根～尾花沢）〈国土交通省〉	—	○	○	12,857,900
		東北中央道（東根～尾花沢）〈国土交通省〉	—	○	○	
		東北中央道（東根～尾花沢）〈国土交通省〉	—	○	○	26,527,500
		東北中央道（東根～尾花沢）〈国土交通省〉	—	○	○	13,450,900
		一般国道113号梨郷道路事業〈国土交通省〉	—	○	○	20,430,000
24,773	668					629,347,100

(2) 調査遺跡の概要

はぐるじんじゃにし 羽黒神社西遺跡

遺跡番号	208-159
調査次数	第1次
所在地	山形県村山市大字名取字清水
北緯・東経	38度31分01秒・140度22分25秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業	東北中央道（東根～尾花沢）
調査面積	4,300 m ²
受託期間	平成26年4月1日～平成27年3月31日
現地調査	平成26年5月19日～11月20日
調査担当者	大場正善（現場責任者）・長谷部寛・阿部明彦
調査協力	村山市教育委員会・村山教育事務所
遺跡種別	集落跡
時代	縄文時代（早期・中期大木8b式段階）・平安時代
遺構	捨て場遺構・フラスコ状土坑・陥穴・土器敷き石囲い炉
遺物	縄文土器・打製石器・磨製石斧・礫石器・須恵器・砥石（文化財認定箱数：410箱）



遺跡位置図 (1:50,000)

調査の概要

遺跡の位置 羽黒神社西遺跡は、村山市大字名取字清水^{しず}に所在する。遺跡は、最上川の難所^{さんがせ}・三ヶ瀬^{さんがせ}の一つ「隼の瀬」の南から約1.8km離れた、河島山丘陵^{かわしまやま}の東側に舌状に張り出した丘陵地に立地する（写真1）。遺跡周辺は、「清水」という字名が示すように、近隣に湧水する場所がいくつか認められる。北西に約4km離れた同市富並^{とみなみ}には、縄文時代中期の環状集落跡として有名な西海淵遺跡^{さいかいぶち}があり、そのほか市内湯野沢^{ゆのさわ}の中村A遺跡^{とちうだ}、土生田の落合遺跡など、近くには縄文時代中期の

遺跡が多く存在している。

調査の経過 今回の調査は、東北中央道（東根～尾花沢）建設工事に伴い、遺跡範囲、約4,300 m²の調査となる。事前に行われた試掘調査では、縄文中期の土器（大木8b式）が多量に発見された。そのことから本遺跡は、縄文時代中期の集落跡であることが予想された。今回は、調査範囲のうち、西側の1区と2区について調査を進めて終了し（図1）、東側の3区と4区については、遺構の掘り下げなどの具体的な調査は、次年度に行う予定である。

遺構と遺物

戦後の土地改変 1区は、戦後すぐに桑の植樹が行われたことを示す溝が、十数条認められた。そのため、1区は、戦後の土地改変によって、遺跡の一部が壊されていることが判明した（図2の左側）。

縄文中期 調査では、形や文様から縄文時代中期（約4,500年前）に位置づけられる縄文土器片^{だいき}（大木8b式）が、3区と4区で大量に発見された（写真2）。大木8b式土器の1段階古い大木8a式も少量含まれているが、大半が大木8b式であることから、中期の中ごろのごく

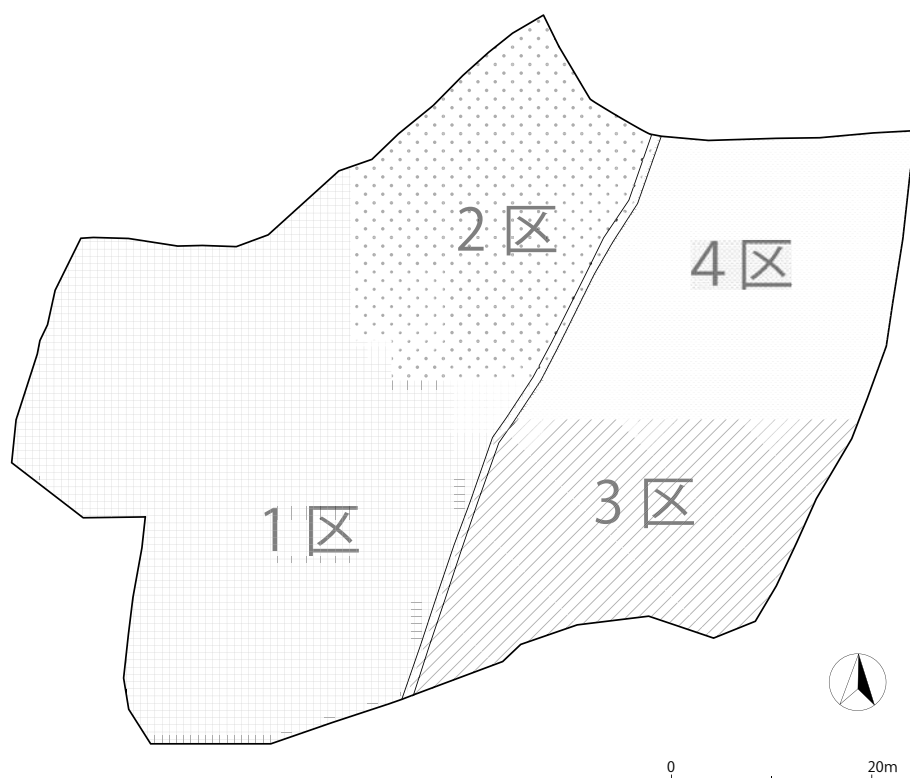


図1 調査区概要図

短期間に大半の遺物が残されたと言える。大木 8b 式土器とともに、石器などの遺物も出土していることから、土器以外の遺物も縄文中期ごろのごく短期間の所産であると考えられる。今後、次年度に繰り越した 3 区・4 区の調査成果と合わせ、具体的な年代について追究していく予定である。

遺 構 発見された遺構は、3 区で 10cm 程度の石で囲った 1 基の石囲い炉や石で囲った内側に土器片を敷き詰めた 1 基の土器敷き石囲い炉（写真 4）、1 区の丘陵の尾根上で、径約 1.5m、深さ約 2m の 4 基のフラスコ状土坑（そのうち、2 基は重複している：写真 3）、1 基の^{おとしあな}陥穴と考えられる土坑がある。とくに、フラスコ状土坑は、下半部が人為堆積で、上半部が自然堆積であることから、掘って崩れる前に半分だけ埋め立てられ、あとは野ざらしの状態であったことが考えられる。そのほか、土を埋め立てて整地した痕跡も発見された。また、とくに調査区に東側の南斜面と北斜面では、大量の土器片と石器などの遺物が密集する集中部も認められた。

石 器 発見された遺物は、大量の縄文時代中期の土器片とともに、大きな石皿や^{すりいし}磨石、^{なた}敲き石といった礫石器のほか、磨製石斧と、石鏃や石匙、錐形石器、ヘラ形石



写真1 調査区全景（北から）

器、^{いけい}異形石器などの打製石器がある。大量の土器に比べて、打製石器が少ないことも特徴的である。山形県内は、最上川流域の河川で、石器の素材となる^{けいしつげつがん}珪質頁岩が豊富に産出しており、寒河江市や大江町付近を中心に、石器を集散的に製作した遺跡が多く存在する。しかし、本遺跡の近隣では、珪質頁岩が採れないので、そのような環境が打製石器の少なさに表れていると考えられる。

土器・土製品 土器は総じて装飾性が高く、深鉢形や浅鉢形をしたもの、また大きさも、かなりの大型品からミ

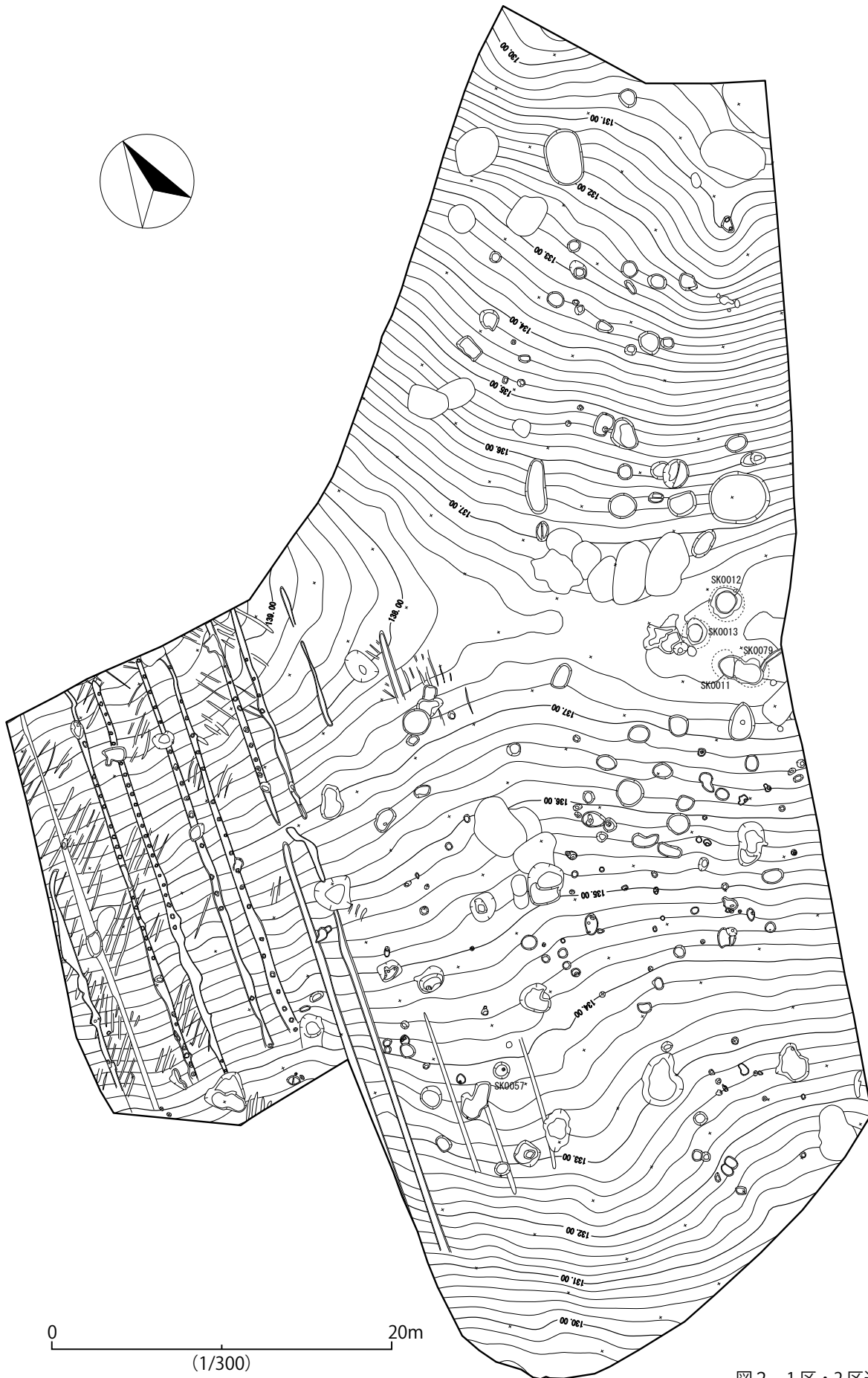


図2 1区・2区遺構配置図



写真2 4区遺物出土状況（北から）



写真3 1区フラスコ状土坑（SK0012）堆積状況（東から）



写真4 3区土器敷き石囲い炉（SL0229）検出状況（南から）



写真5 発見された土偶

ニチュア（小型のもの）までである。土偶は5体、あるいは7体発見されており、そのうち1体は一個体に復元できる（写真5）。もう1体は、脚部のみしか発見されていないが、大型で精巧な文様が施されている。また、国宝・西ノ前遺跡出土「縄文の女神」と同じ形と考えられる土偶も、腰部のみであるが発見された。さらに、2点の土笛と思われる袋状土製品（写真6）のほか、用途不明の円管形土製品も発見された。

早期の遺物 このほか、中期の遺物が出土した地層よりも下位の地層からは、縄文時代早期（11,000～7,000年前）の押型文土器や条痕文土器、尖底土器などの遺物が発見された。本遺跡が、1万年以上前から、生活の場として利用されていたことがうかがわれる。

古代の遺物 また、ごくわずかであるが、須恵器や古代のものと思われる砥石が発見された。近隣の清水遺跡は、当センターの調査により平安時代の集落跡であることが明らかになっており、本遺跡にも平安時代のヒトが足跡を残していた可能性があると考えられる。



写真6 発見された袋状土製品

まとめ

本遺跡の調査では、縄文時代中期中ごろの遺物が大量に発見された。その一方で、遺構については、遺物量に比べて少ないことが言える。今後の3区と4区の調査によって、住居跡などの何らかの遺構の存在が判明すれば、本遺跡における縄文時代中期中ごろの生活の様子が明らかになることが予想される。

清水遺跡 (第7・8次)

遺跡番号	208-114
調査回数	第7・8次
所在地	山形県村山市大字名取字清水南・清水北
北緯・東経	38度31分08秒・140度22分24秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所 山形県村山総合支庁建設部北村山道路計画課
起回事業	第7次：東北中央道（東根～尾花沢） 第8次：一般県道村山大石田線村山北1 IC 設置工事
調査面積	4,200 m ² （第7次：1,100 m ² ・第8次：3,100 m ² ）
受託期間	第7次：平成26年4月1日～平成27年3月31日 第8次：平成26年5月7日～平成27年3月31日
現地調査	平成26年6月2日～12月3日
調査担当者	氏家信行（現場責任者）・尾形知哉・森谷康平
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・村山東根土地改良区・村山市教育委員会・村山教育事務所
遺跡種別	集落跡
時代	縄文時代・奈良時代・平安時代
遺構	陥穴・掘立柱建物跡・竪穴住居跡・溝跡・土坑・柱穴等
遺物	石器・土師器・須恵器・墨書土器・石製品（文化財認定箱数：24箱）



遺跡位置図 (S = 1 : 50,000)

調査の概要

遺跡は、村山市東部の最上川が蛇行する右岸部にあり、清水地区のなだらかな丘陵の東斜面上に位置する、縄文時代と奈良・平安時代の広大な遺跡である。

平成22・23年度に清水遺跡(1)～(4)の地区に分け

て第1～6次調査を行っている。今回は、その地区の(1)～(3)の東北中央自動車道(東根～尾花沢間)の事業範囲に係る未調査区と一般県道村山大石田線村山北1 IC 設置工事のスマート IC 部分について調査を実施した。

調査は、先に清水遺跡旧(1)の未調査部分(農道)を主に行い、その後、清水遺跡旧(2)・(3)のスマート IC 及び中央道部分(市道)を行った。

最初に、重機で遺構を確認できる深さまで表土を除去した後、手作業で土を削り(面整理・遺構検出作業)、遺構の確認をした。その後、見つかった遺構を移植コテで掘り下げ、断面図や平面図作成、写真撮影などの記録を進めた。

遺構と遺物

今回の調査では、縄文時代の^{おとしあな}陥穴と奈良・平安時代の^{どこう}竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、溝跡などが見つかった。

遺跡の南、旧(1)地区のH・G区からは奈良・平安時代の竪穴住居跡2基と溝跡などが検出された。

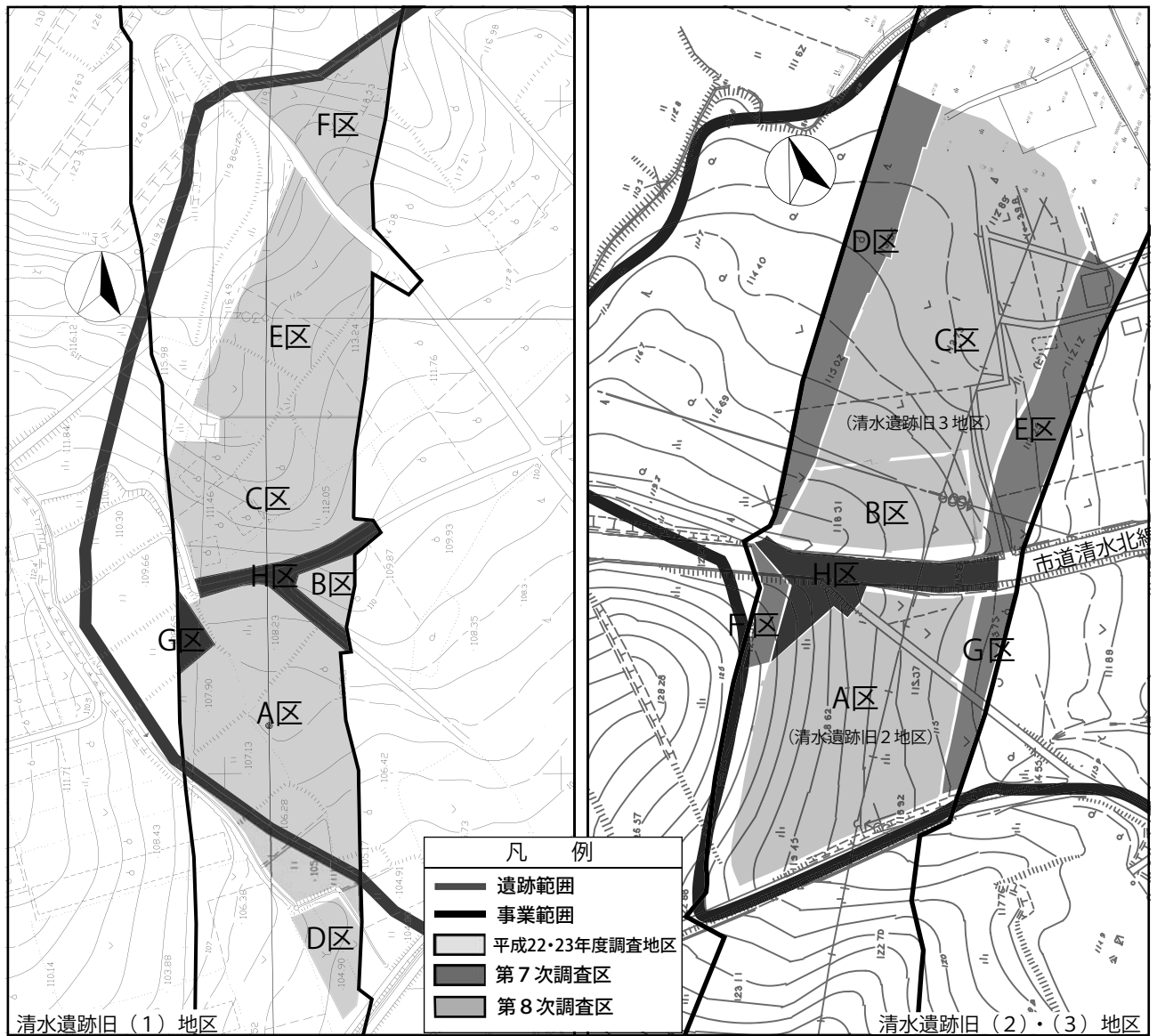


図1 調査区概要図 (S = 1 : 2,000)

住居跡 ST740 は緩斜面に構築され、規模が 4.8×4.5m で南東隅にカマドが造られていた。一部に粘土による貼り床が認められた。須恵器や土師器の甕、蓋、坏など多くの遺物が出土した。中には、墨で文字が書かれた墨書土器やミニチュア土器もある。住居跡 ST777 は北側半分のみであるが、須恵器の坏や土師器の甕などが出土している。また、G 区で見つかった溝跡は A 区から続く SD186 と考えられる。

遺跡の北、旧 (2)・(3) 地区の D・E・G・H 区からは縄文時代の陥穴と奈良・平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、溝跡などが見つかった。F 区は抜根跡と重機による攪乱のみ、H 区の市道は、深さ 1.4m まで重機で掘削され遺構・遺物は削平されていた。

縄文時代の陥穴は D・E 区で各 1 基検出された。長さ

3 m、幅 40～50cm、深さ 1.0～1.2m を測る。これまでの調査でも B 区で 3 基、C 区で 1 基検出されていて合計 6 基となる。縄文時代の遺構は陥穴だけである。

竪穴住居跡は、D・G・H 区で計 9 基検出された。規模は 2.3m 四方の小さいものから、7.0×6.0m を測る大型のものもあり、G 区北側に重複も含め 6 軒が集中している。カマドは南側に多く設置され、遺物も出土している。ST381・383・384 はカマドが無く、規模も小さく ST384 からは粘土塊や板状の製品が出土したことから工房跡の可能性はある。H 区の ST448 の覆土から十和田 a と思われる火山灰が検出された。

掘立柱建物跡は、D・E・G 区で前回の調査区から続くものを含め、11 棟確認された。その規模と数は 2×2 間と 2 間×3 間が各 3 棟、3×3 間は 1 棟、内側に

も柱をもつ^{そうぼしら}総柱の建物は2×2間、3×4間、2×2間以上が各1棟そして、2×5間の^{がわぼしら}側柱＋総柱の建物が1棟である。そのうち、9棟がD区中央に集中し、平成23年度に見つかっている建物群の広がりである。これら建物跡は、その規模から大半が倉庫と考えられる。

D・E区の溝跡は、前回の調査区(C区)から続くもので建物群を囲む区画施設と考えられる。南北50m、東西80m以上の範囲を測る。

土坑はD区から直径2.0mを測る大きいものが4基検出され、多くの土器片が出土している。

遺物は、縄文時代の石^{せきぞく}鏃と石^{いしさじ}匙などの石器と奈良・平安時代の素焼きの土器で赤褐色の土師器、窯で焼かれた灰色の須恵器、砥石、金属製の紡錘車^{ぼうすいしや}などが出土した。土師器や須恵器には蓋、坏、高台付坏、甕などの器種がある。坏の底部の切り離し痕は回転糸切りが多数を占め、中には黒色処理がされた黒色土器や「縄」・「方」・「王」などの文字が書かれた墨書土器がある。

検出された住居跡や建物跡、溝跡などに造り替えや重複があることから、何時期かの変遷があったことが分かる。但し、出土した遺物に大きな時期差が認められないことから、短期間に建て替えが行われたと考えられる。

まとめ

今回の調査では、縄文時代の陥穴と9世紀を中心とする奈良・平安時代の集落跡、区画施設に囲まれた建物群など前回の調査区の広がりが確認された。

今までの調査結果から、最上川右岸の清水遺跡の丘陵は縄文時代には主に動物の狩場として機能し、8世紀末頃から人々が住み始め、9世紀には多くの竪穴住居が丘陵斜面に造られ集落が営まれた。その後、遺跡の北には住居に付随して建物や工房なども造られたと考えられる。一方、隣接する市道北側は、9世紀後半までには区画施設に囲まれた掘立柱建物群が建てられていた。

建物群は主軸方向がほぼ一致し、計画的に配置されている様子うかがえる。そして、中央西側に集中する建物群には掘り方の大きさが1.0m前後を測るものがあり、遺物にも大型の須恵器甕や墨書土器などがあることから、一般集落では無く、区画施設に^{ぐんが}囲まれた郡衙関連施設、または、地方豪族の居館跡^{きよかんあと}と考えられる。

なお、検出された火山灰から、この丘陵地の集落は短期間に何時期かの変遷を経て、青森県と秋田県の県境にある^{とわだかさ}十和田火山が噴火した10世紀初頭には廃絶されていた可能性が高い。



清水遺跡旧(1)地区

写真1 第7次調査区全景(北から)



清水遺跡旧(2)・(3)地区

写真2 第7・8次調査区全景(北から)

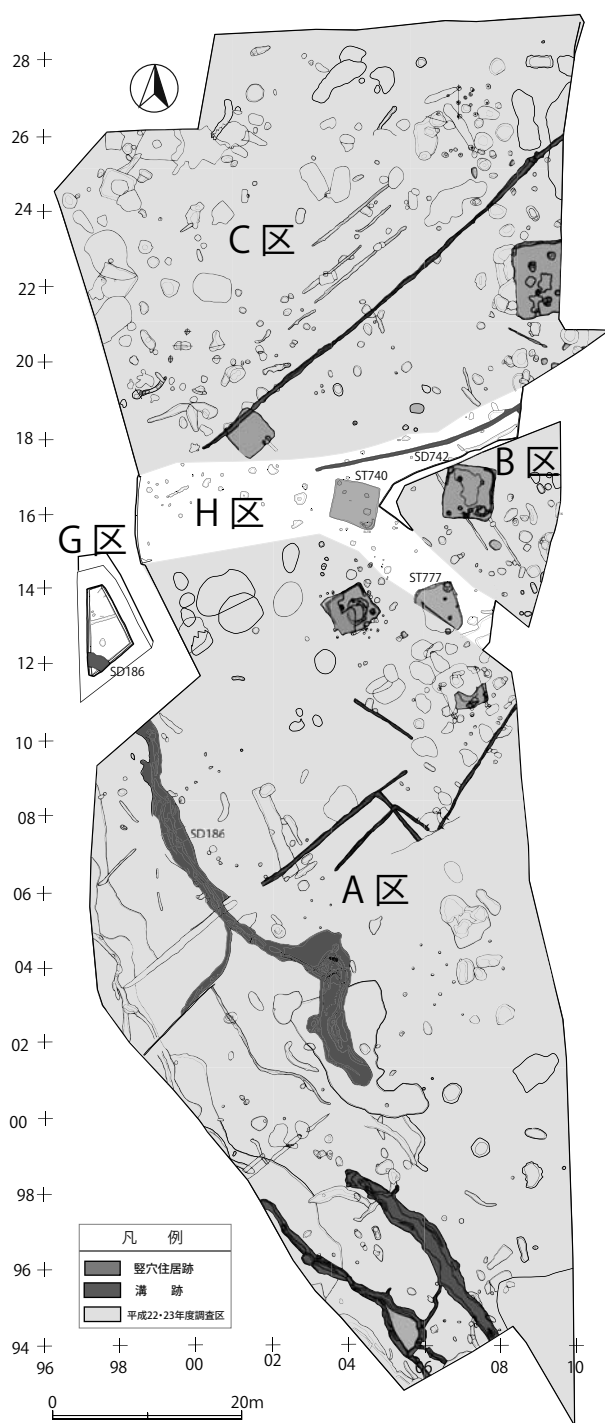


図2 第7次調査区遺構配置図 (S = 1 : 800)



写真3 ST740 竪穴住居跡遺物出土状況 (北東から)



写真4 ST740 竪穴住居跡のカマド (北東から)



写真5 ST777 竪穴住居跡遺物出土状況 (東から)



写真6 ST777 出土遺物 (南から)



写真7 ST740 出土遺物 (北東から)

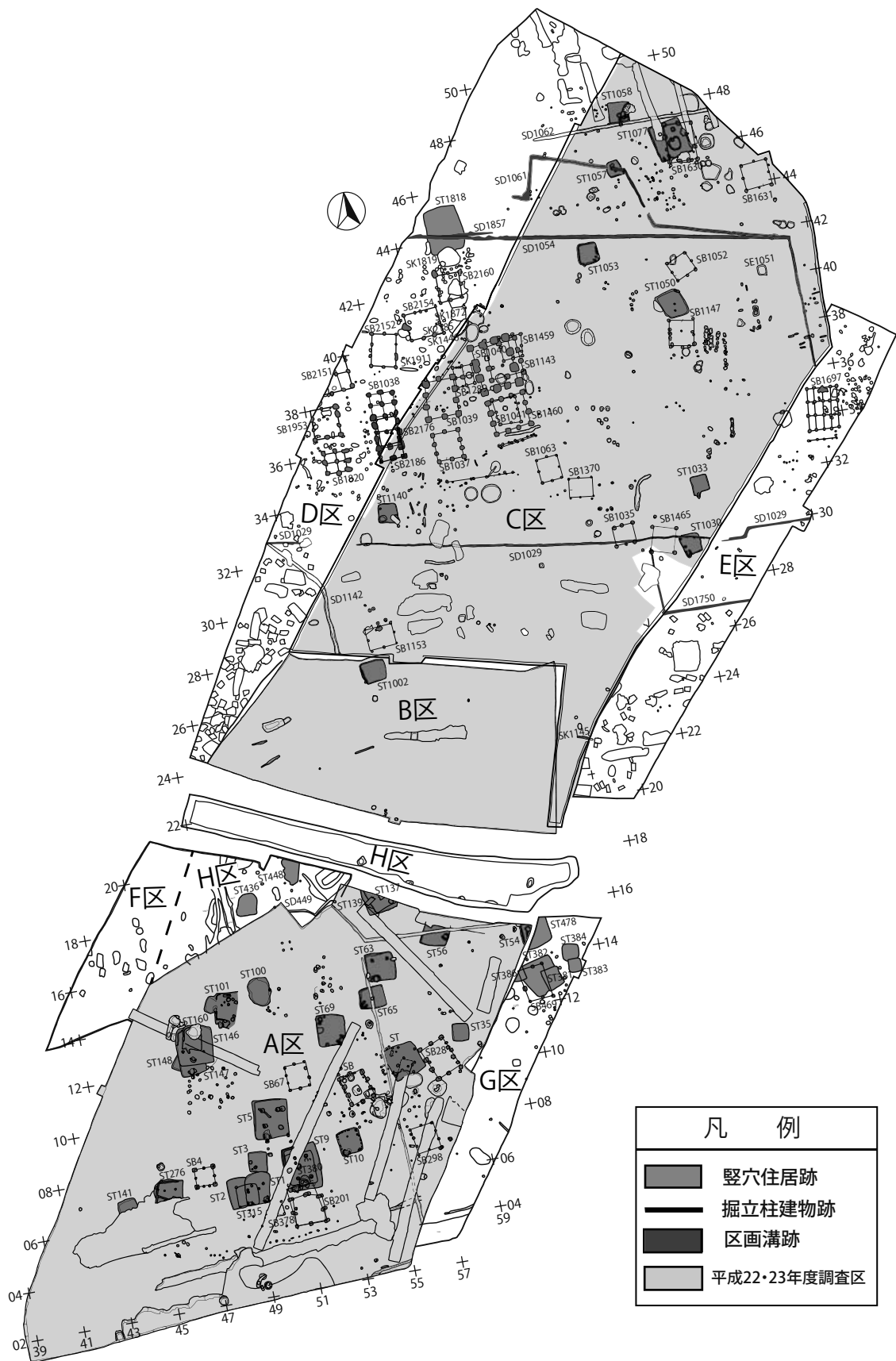


図3 第7・8次遺構配置図 (S = 1 : 1,000)



写真8 SK1911 陥穴 (東から)

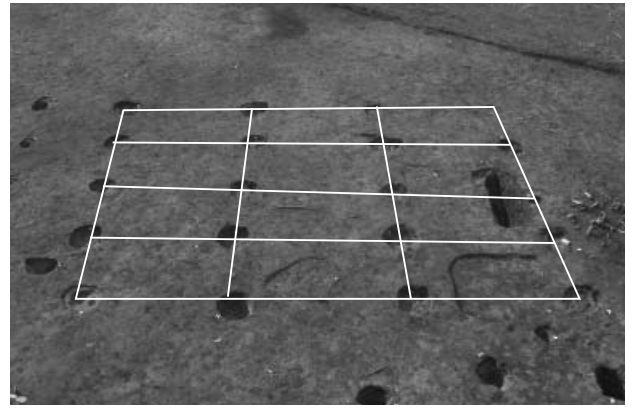


写真9 SB1697 掘立柱建物跡 (東から)



写真10 ST1818 竪穴住居跡・SK1819 土坑 (北から)



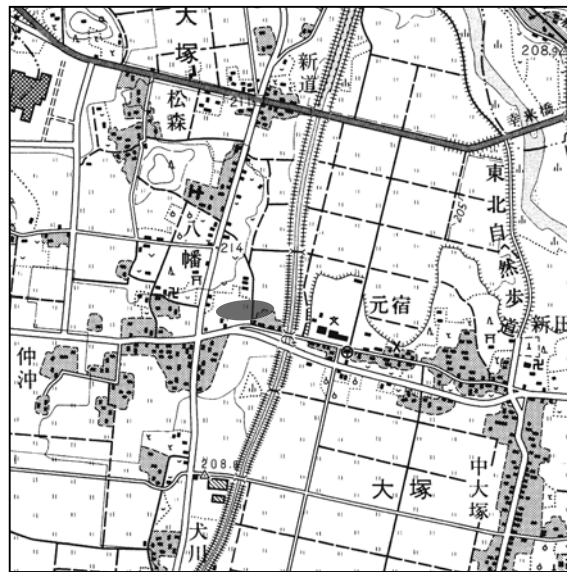
写真11 G区竪穴住居跡 (南から)



写真12 D区掘立柱建物跡群 (南から)

やわたいち
八幡一遺跡

遺跡番号 382-194
 調査次数 第1次
 所在地 山形県東置賜郡川西町大字西大塚字八幡一
 北緯・東経 38度02分40秒・140度03分54秒
 調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
 起因事業 一般国道113号梨郷道路事業
 調査面積 9,900㎡
 受託期間 平成26年4月1日～平成27年3月31日
 現地調査 平成26年5月20日～12月19日
 調査担当者 水戸部秀樹（現場責任者）・市川光紀
 高柳俊輔・渡邊安奈
 調査協力 川西町教育委員会・置賜教育事務所
 遺跡種別 集落跡
 時代 古墳時代・奈良時代・平安時代・中世・近世
 遺構 井戸・土坑・柱穴・木棺墓・旧河道
 遺物 土師器・須恵器・陶磁器・石器・石製品・木製品・古銭（文化財認定箱数：120箱）



遺跡位置図（1：50,000）

調査の概要

八幡一遺跡は、最上川が形成した河岸段丘の北側に位置している。遺跡のすぐ東側を流れる元宿川は、まもなく最上川へと合流する。遺跡のすぐ東側を流れる元宿川は、まもなく最上川へと合流する。昨年度調査が行われた元宿北遺跡は、元宿川の対岸に位置している。遺跡の主な時代は、平安時代や中世であるが、出土した遺物には縄文時代から近世までのものが含まれていた。また調査区内からは近現代の用水路跡も検出されており、耕地整理前の水田区画が確認された。

遺構と遺物

南北約60m、東西約180mを測る調査区の中央部で、東西に伸びる旧河道が検出された。かつては水が流れており、東側の元宿川へと合流したのであろうが、やがて水の流れは途絶えてしまい湿地に変わったようである。内部からは縄文時代・弥生時代・古墳時代・古代・中世の遺物が出土しているが、この湿地内で使用されたものではなく、調査区の南北にある微高地上から廃棄されたものと考えられる。この旧河道の北岸から大変興味深い遺物が出土しており、調査区の北側に未発見の重要な遺跡が存在していることが予想された。

井戸は4基確認されており、井戸3・4は素掘り、井戸1・2は井戸枠を有するものであった。井戸1（写真2）の掘方は、直径1.4m、深さ1mほどで、内部から木製の井戸枠が検出された。井戸枠の四辺に並べられた縦板は、その内側に設置された横棧によって、倒れないように固定される。横棧は、井戸枠内部の四隅に立てられた柱にホゾを使ってはめ込まれており、その接合部には木製の楔が打ち込まれている。井戸枠の内部からは、曲物3点、砥石1点、陶器、土師器などが出土した。

井戸2（写真3・4）からも同様に曲物1点、曲物底板1点、そして木槌1点が出土した。井戸の掘り方は大きく直径2.5mを測る。本来は井戸枠が設置されていたと考えられるが、すでに抜き取られている状態であった。

素掘りの井戸3（写真5）の深さは3.3m、井戸4（写真6）が2.3mで、いずれも平面形は円形である。井戸3からは、9世紀頃の須恵器の蓋が出土している。それぞれの井戸の周囲には、複数の円筒形の土坑が検出され、埋土の土層を観察すると短期間で埋め戻されていることが分かった。地下水の水脈を求めて試し掘りを行っていたのだろうか。



写真1 調査区全景（合成写真）

近世の木棺墓（写真7）からは、当時の葬送儀礼に関わったと考えられる遺物として、銅銭3枚、唐破風状に成形され墨描きの施された板状木製品、17世紀の磁器（肥前）などが出土した。なお、遺体や木棺の上半部は失われていた。

調査区西半部からは、多数の柱穴が検出されており、掘立柱建物などが建てられていたと考えられる。柱穴からは16世紀に属する瀬戸焼の天目茶碗が出土している。これらの柱穴群は、旧河道上にも分布していることから、16世紀頃までには、河川は完全に埋没していたと考えられる。

出土した遺物の中で特に重要なものとして挙げられるのが、平安時代（9世紀前半）に属する刻書土器（写真8）と鎌倉時代（13世紀）に属する滑石製石鍋（写真9）である。いずれも旧河道の北端から出土している。刻書された土器は、須恵器の小型壺であり、法会などで使用する水瓶あるいは浄瓶という仏具に相当する。底部には『佛法爲』という文字が刻まれている。また3文字目の『爲』は楷書ではなくずし字であると考えられる（資料1）。刻書は、土器の表面に文字を刻み入れる手法であり、焼成前に行われる。そのため土器を製作する工房内で書き入れられなければならない。刻書が工房の職人によるものなのか、あるいは工房に赴いた僧侶などによるものか議論が分かれるところである。『佛法』とは仏教と同義であり、仏教を信仰する人々が使用していたのであろう。この刻書土器は、旧河道の北側にある微高地上から廃棄されたものであり、北側の微高地上に、仏教に係わる何らかの施設が存在していたことを示唆するものである。県内では『佛』と刻書された土器の出土例は、米沢市の横山C遺跡に次いで二つ目となる。また川西町の道伝遺跡からは『佛』と墨書された土器が出土している。

滑石製石鍋（写真9）は、九州北部で生産され、西日本では数多くの出土例がある。東日本においては、鎌倉以外の地域から出土することは稀であり、県内では3例目となっている。当遺跡で出土した石製石鍋は13世紀のものであり、鎌倉幕府の関係者がもたらしたものかも知れない。やはり北側の微高地上から廃棄されたと考えられ、中世に至っても何らかの施設が存在していたと考えられる。

ほかには、13世紀頃の中国産青磁や13～14世紀頃の珠洲焼の甕、14～15世紀と考えられる古瀬戸の碗や皿が旧河道より出土している。また供養のための板碑や石

灯籠、石塔あるいは宝篋印塔の最上段に据える部品である相輪も出土しており、中世においても仏教との深い関わりを示す遺物が目立つ。さらに時期は不明であるが、石製陽物が1点出土している。

まとめ

調査区から出土した遺物のほとんどは、旧河道からのものであり、周囲の微高地上から廃棄されたものと考えられる。遺物の年代は縄文時代から近世までであり、絶えず人々の暮らしが営まれていたことを示している。特に古代以降になると、出土遺物が増え、また刻書土器や滑石製石鍋などの特殊な遺物が含まれるようになる。調査区中央部の旧河道から多様な遺物が出土したことから、調査区の周辺の様相についても重要な手がかりを得られたと言える。



資料1 『五体字類』より



写真2 井戸1の井戸枠（北から）



写真3 井戸2の断面（北から）



写真4 井戸2曲物出土状況（南から）



写真5 井戸3完掘状況（東から）



写真6 井戸4完掘状況（西から）



写真7 木棺墓（南東から）



写真8 刻書土器出土状況



写真9 滑石製石鍋

やまがたじょうさんのまる
山形城三の丸跡（第14次）

遺跡番号	201-003
調査回数	第14次
所在地	山形県山形市城北町・旅籠町
北緯・東経	38度15分35秒・140度19分35秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業	一般国道112号霞城改良事業
調査面積	4,500㎡
受託期間	平成26年4月1日～平成27年3月31日
現地調査	平成26年5月20日～11月28日
調査担当者	小林圭一（現場責任者）・川崎康永・小笠原伊之・高木茜
調査協力	山形市上下水道部・山形市教育委員会・村山教育事務所
遺跡種別	集落跡・城館跡
時代	奈良時代・平安時代・中世・近世
遺構	溝跡・土坑・柱穴・井戸跡・河川跡
遺物	土師器・須恵器・陶磁器・金属器・瓦・銭貨（文化財認定箱数：52箱）



遺跡位置図（1：50,000）

調査の概要

山形城三の丸跡は、霞城公園のある山形城（本丸・二の丸）を取り囲む東西約1.6km、南北約2kmの広大な城館跡で、文禄・慶長年間（1592～1615年）に最上氏第11代当主の最上義光が、三重の堀を構えた城郭として整備したと言われている。国内では5番目の広さで、奥羽地方では最大の城であった。しかし最上氏は元和8年（1622年）に第13代義俊が改易され、それ以降鳥居氏から水野氏まで藩主が転封・入部を繰り返した。石高も57万石から5万石まで削減され、広大な山形城を

維持することが困難となり、手入れが行き届かず、幕末期の水野氏5万石時代には三の丸のほとんどが水田や畑になっていたと言われている。

今回の発掘調査は、国道112号の拡幅工事に起因し、平成23年度の第9次調査、24年度の第11次調査、25年度の第13次調査に続いて実施されたものであり、国道112号に沿った区域を、市街地の区画毎に7箇所の調査区（B・I～L・N・O区）に分けて調査を実施した。

遺構と遺物

今回の調査では、奈良・平安時代から近世・近代まで、各時代の遺構や遺物が検出され、人々がこの地に長い期間にわたって暮らしてきた様子が判明した。

遺構が最も多く検出されたのは、K区とした調査区で、近世の井戸跡と思われる石組み施設が検出された。また西隣のL区とした調査区では、石を組んだ施設内（長径240cm）に瓦が大量に投げ込まれていた。瓦の総数は390点を数えたが、その中には最上義光が山形城を大規模改修した頃（16世紀末～17世紀初頭）の様式の軒丸瓦、軒平瓦が含まれていた。その他の瓦も大部分が江戸時代中頃までの様式で、三の丸北西端に当たる地域

の武家屋敷が取り壊され、必要なくなった瓦が捨てられたものと考えられる。

遺物としては、16世紀末～17世紀初め頃に佐賀県の唐津で焼かれた陶器等が出土した。中には完全な形のものも含まれており、最上氏の時代に関係した遺物と考えられる。また金箔を張った痕跡を残す瓦の破片も出土しており、最上氏時代の栄華をうかがわせている。

まとめ

江戸時代には武家屋敷となっていた三の丸一帯は、古

代から既にある程度の規模の集落が存在しており、そうした集落を基盤にして城下町が形成され、近代の山形市街地の発展につながったと考えられる。今回調査した三の丸の北西側は、最上氏時代の16世紀末～17世紀の遺物がこれまでの調査より多く出土したことから、この地域が比較的古い時期に田畑となったため、後世の開発があまり進まなかったと考えられる。三の丸の範囲内でも、場所により後世の土地利用に差異があったことを示すものであろう。



写真1 J-1区 SK1551 遺物出土状況

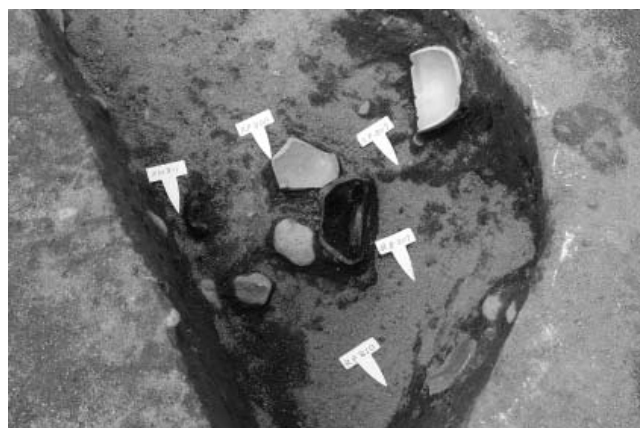


写真2 J-1区 SK1531 遺物出土状況



写真3 K-2区 SK1669 調査状況



写真4 L-1区 SK1697 瓦出土状況



写真5 L-1区 SK1697 出土瓦



写真6 L-1区 SK1697 瓦出土状況



図1 調査区概要図 (S=1:200)

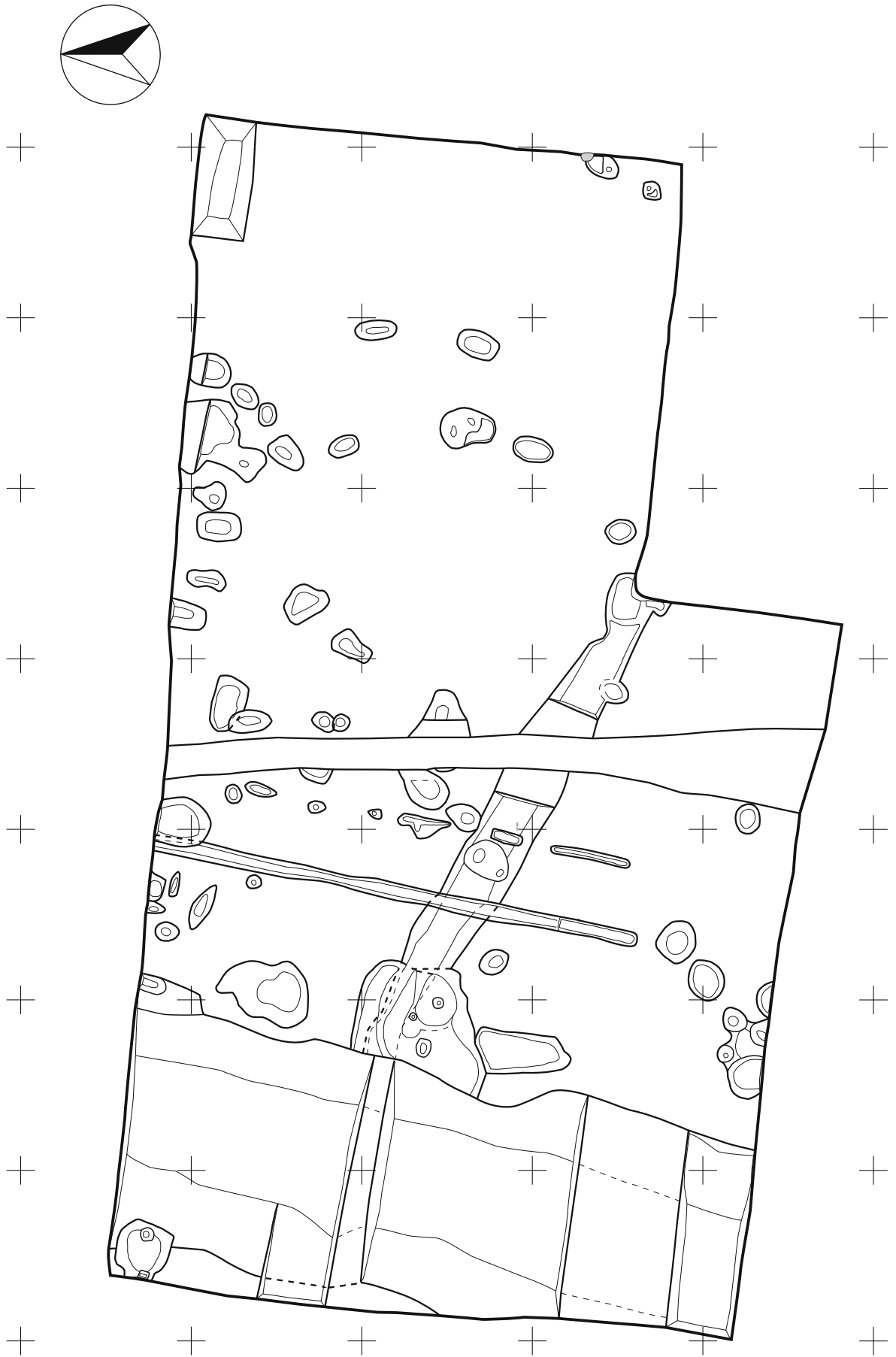


図2 J-1区遺構配置図 (S=1:100)

やまがたじょうさんのまる
山形城三の丸跡 (第15次)

遺跡番号	201-003
調査回数	第15次
所在地	山形県山形市旅籠町
北緯・東経	38度42分02秒・140度56分02秒
調査委託者	山形県村山総合支庁建設部都市計画課
起回事業	山形広域都市計画道路事業3・2・5号旅籠町八日町線(山形市七日町地内)
調査面積	1,873㎡
受託期間	平成26年4月1日～平成27年3月31日
現地調査	平成26年6月2日～12月5日
調査担当者	齋藤健(現場責任者)・東海林弘和・板橋龍
調査協力	山形市教育委員会・村山教育事務所
遺跡種別	城館跡
時代	中世・近世
遺構	溝跡・土坑・柱穴・井戸跡
遺物	土師器・須恵器・陶磁器・金属器・石製品・木製品 (文化財認定箱数:62箱)



遺跡位置図 (1:50,000)

調査の概要

山形城は、馬見ヶ崎川扇状地に14世紀後半に最上氏の始祖斯波兼頼しばかねよりにより築かれたとされ、代々最上氏が居城としてきた。17世紀初頭には、最上義光もがよしあきにより57万石の大名の居城として相応しい規模の近世城郭として三の丸まで拡張された。最上時代には、三の丸の外側に十日町や本町、七日町などの商人町の他に鉄砲町、銅町、檜物町、塗師町などの職人町が配置され城下町が整備された。その外縁主要街道沿いにも家臣の屋敷が配置され、現在の山形市街地の原型となった。

しかし、義光の死後に発生した御家騒動により最上氏は改易される。その後入封した鳥居氏は馬見ヶ崎川の流路変更工事や山形五堰の整備、二ノ丸の大規模な改修を行い、現在の姿が完成された。

しかし、17世紀末以降山形藩は左遷地となり、藩主が短期間のうちに度々変わり石高も徐々に減る。このことから、広大な城の維持は困難となり荒廃する。18世紀後半の秋元氏入封時には、本丸は更地となり二の丸内も小規模な建物が散見するだけで、藩主の屋敷は二の丸大手門の外に置かれた。藩士の住居も三の丸東半分にとめられ、三の丸の大部分は農地となった。

城郭の衰退に反し、城下町は紅花をはじめとする特産品を扱う富裕な商人が集住していたことや出羽三山参詣の拠点として大いに栄えた。

山形城三の丸には11の口(門)があった。現在の山形市立病院済生館さいせいかん東側にあった七日町口は大手門として扱われた。七日町口内から二の丸大門までの道沿いには、18世紀前半までは重臣の屋敷が立ち並び、幕末の水野時代でも家臣の屋敷が道沿いに立ち並んでいた。

明治維新により山形城は廃城となり、明治初年には三の丸の堀や土塁の多くは撤去埋め立てられ、三の丸内に

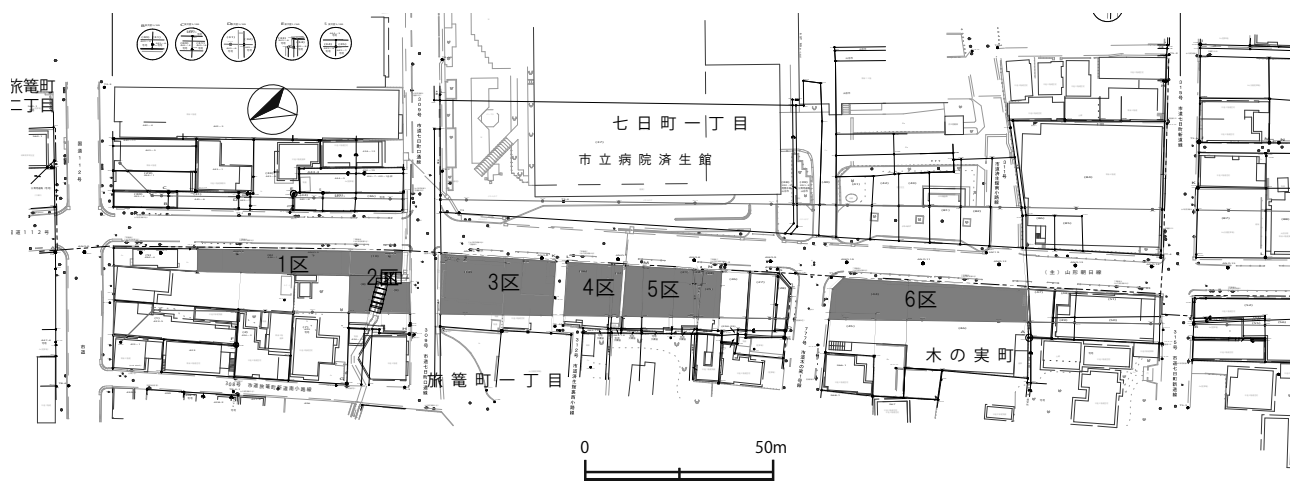


図1 調査区概要図



写真1 6区河川跡検出状況（南から）

も庶民が住居を構えられるようになり、市街地化が進んだ。また、県令三島通庸^{みしまみちつね}の指導の下、新道を建設する新しい都市計画が始まった。今回の調査起因事業である旅籠町八日町線も、この時に作られた道路である。三の丸七日町口大手門跡には、現在の山形市立病院済生館の前身である済生館病院が建設された。

近年、幹線街路の利便性を高めるために計画された山形広域都市計画道路事業の一部として旅籠町八日町線を拡幅することとなり、三の丸跡の発掘調査を実施した。

今年度は、事業区内のうち 1,873 m²を調査した。残りについては次年度以降、引き続き調査を行う。

遺構と遺物

今回の調査では、調査区を北から1～6区の6つの調査区に分けた。2区が三の丸の堀跡と見られ、1区は町家、3～6区が三の丸内である。

現在、調査区近辺の地形は南北方向は平坦で、東西方向はゆるやかに西に下がる扇状地ではあるが、近世には旧河道による起伏が有り、近代以降に盛土をして平坦化している。現地表面から数m掘り下げると、直径50cm



写真2 1区完掘状況（北西から）

以上の円礫が多数ある礫層で、流水により形成された扇状地であることが実感させられる。

3区と4区、6区は、鉄筋コンクリート建物が建てられていたため、基礎により深く破壊を受けて遺構は残存せず、近現代の盛土に遺物が混入しているだけであった。ただし、6区に近世の井戸と、礫層の地山に砂層の河川跡がわずかに残っていた。河川跡からは9世紀頃の須恵器や土師器片が少数出土している。

1区で検出されたのはほとんど近代以降の掘り込みで、近代以前の遺構と確定できるものを確認することは出来なかったが、19世紀前半の波佐見産磁器^{はさみ}などの近世の遺物も散見された。

2区は鉄筋コンクリート建物基礎が残っていたことと近代以降の「御殿堰」^{ごてんぜき}により詳細な調査はできなかったが、三の丸堀跡と推測される。現況地表面から深さ2m程で地山層とおもわれる礫層を確認できた。覆土は近代以降のもので、40年ほど前まで営業していた染物屋が使用していた藍甕が出土した。山形市が実施した市立第七小学校敷地内の発掘調査で三の丸堀跡を検出して



写真3 5区遺構検出状況全景（南から）



写真4 5区石組井戸完掘状況（北から）



写真5 5区大型区画溝完掘状況（北から）

いるが、そこも現地表面から深さ2m程であり、三の丸の堀は門周辺以外はその程度の深さであった可能性もある。次年度再調査して詳細を調べる。

5区は、近世を通じて武家屋敷が存在した地区で、水野時代も「長屋」と呼ばれた藩士の住居が大手道沿いに並んでおり、現在でも多くの子孫が住んでいる。5区は、近代以降に盛土整地し木造家屋が建っていたため、遺構の残存状況が良好であった。近代まで使われていた石組の井戸など、幕末から近代にかけての遺構も多く検出した。その下から、東西方向に伸びる長さ20m以上、幅約4m、深さ約1mほどの大型の区画溝が検出された。法面は砂で整形し、短い存続期間の後に埋め戻されたような土層で、流水や滞水の痕跡も認められなかった。時期判定の手がかりとなるような遺物が出土せず、時期判定は困難である。しかし、次年度の調査予定区へ伸びており、次年度の調査で手がかりが見つかることを期待したい。また、この大型区画溝に該当すると思われる描き込みは、各時代の絵図面では確認できない。

5区の西壁面には落ち込みも観察できた。堆積土を観察すると、最下層より17後半頃と思われる肥前産の陶

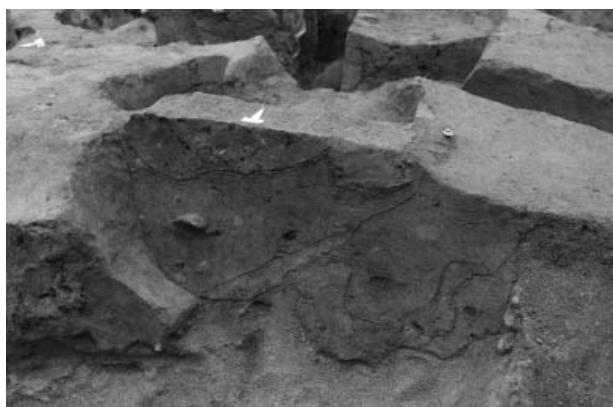


写真6 5区近世初頭柱穴（西から）

器皿のほか、小柄の刀身と家紋のような模様がついた青銅製の柄が出土した。土層は、徐々に堆積した後、幕末から明治頃に盛土をしたように観察できる。この落ち込みは西側に徐々に深くなりながら調査区外へ伸びており、区画溝であると思われる。

他にも、詳細な時期は不明ながら、近世初頭以前と思われる柱穴が重複して検出された。

巴紋の軒瓦や灯明皿として使用した痕跡がある土師質皿、寛永通宝の他にも宋銭や明銭も出土している。

まとめ

今年度の調査区は、三の丸大手門に近い地区を調査した。3、4、6区は建物の基礎工事により、攪乱を受けており、遺構は殆ど残っていなかった。しかし、6区では近世の井戸や9世紀頃の須恵器や土師器片が混入した河川跡などが検出された。

1区は三ノ丸の郭外で町家が立ち並ぶ地区であったが、近世の目立った遺構は検出されなかった。

2区には明治時代に付け替えられた御殿堰があるが、三の丸の堀跡であったとみられる。次年度に再度調査を行い詳細を確認する。

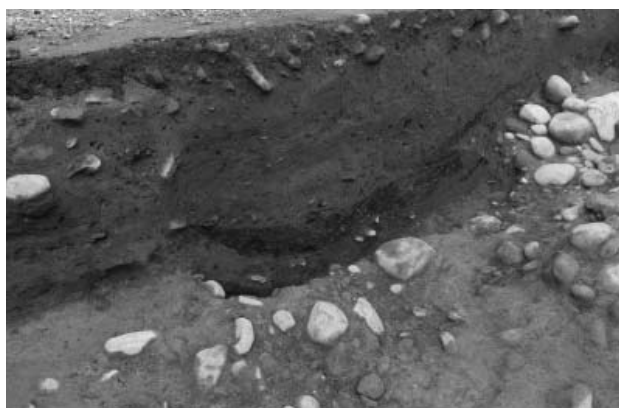


写真7 5区西壁面落ち込み完掘状況（東から）



写真8 5区落ち込み出土肥前産陶器皿（東から）

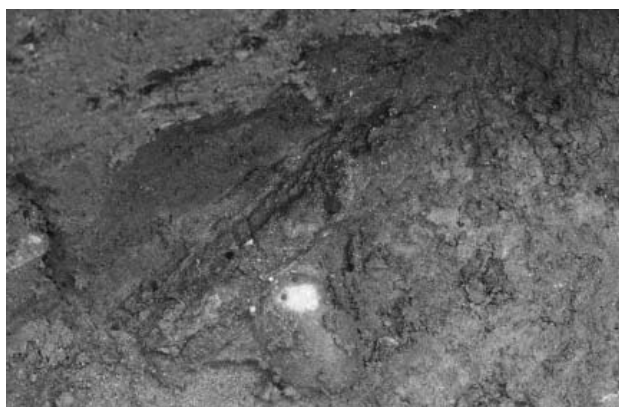


写真9 5区落ち込み出土小柄の刀身（東から）



写真10 5区落ち込み出土小柄の柄（東）



写真11 5区出土土師質皿（北から）

2区と3区間の現在の道路は三の丸の土塁で、3区が近世の道路であったとみられる。

5区は近代に盛土をしており、遺構の残存状況が良かった。最も大きな成果は、5区を南北に縦断している長さ20m以上、幅約4m、深さ約1mの区画溝である。法面は砂層で調整しており、流水や滞水した形跡がうかがえない。さらに、この区画溝は各時代の城絵図には全く見当たらないもので、埋土にも遺物の混入はなく、一度に埋め戻されており、存続期間は極めて短かったとみられる。遺構の重複状況より少なくとも18世紀前半か



写真12 5区出土瓦（北から）

ら水野期以前のものであろう。来年度以降の調査区へ伸びており、今後の調査成果に期待したい。

また、最上時代の遺構遺物は検出できなかったが、17世紀後半頃の東西方向の区画溝の可能性のある落ち込みを検出した。5区の北西端には、その前後の時期であると思われる柱穴が集中して検出された。

2. 普及・啓発・研究等業務

(1) 研修等

①全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業への派遣

ア 総会

期 日 平成26年6月19日～6月20日
 会 場 岩手県盛岡市（ホテルルイズ）
 派遣職員 専務理事 三浦秋夫、専門調査研究員 齊藤主税

イ ブロック活動

北海道・東北地区会議

期 日 平成26年10月23日～10月24日
 会 場 福島県会津若松市（ホテルニューパレス）
 派遣職員 専務理事 三浦秋夫、総務課長 黒坂雅人、調査研究員 渡辺和行

ウ 全国埋蔵文化財調査情報交換会

期 日 平成26年11月25日
 会 場 東京都中央区（アットビジネスセンター東京駅）
 派遣職員 調査課長補佐 須賀井新人、総務係長 高桑弘美

エ 研修会

期 日 平成26年11月27日～11月28日
 会 場 奈良県奈良市（ホテル日航奈良）
 派遣職員 専門調査研究員 齊藤主税、総務係長 高桑弘美

②埋蔵文化財担当者専門研修への派遣

ア 報告書作成課程 I・II

期 日 平成26年7月7日～7月18日
 会 場 奈良文化財研究所
 派遣職員 調査研究員 大場正善

イ 文化財写真課程

期 日 平成27年1月13日～1月23日
 会 場 奈良文化財研究所
 派遣職員 調査研究員 渡辺和行

(2) 普及啓発

①普及啓発事業実行委員

県教育庁文化財・生涯学習課（埋蔵文化財センター駐在）						
センター公開事業			ふるさと考古学講座			研修講座
子ども ミュージアム	センター 参観デー	発掘調査 速報会	上山城共催事業 展示・体験	遺跡を 掘ってみよう	バスで遺跡を 見に行こう	市町村文化財 担当者研修
後藤枝里子	草野潤平	植松暁彦	渡辺和行	大場正善	齊藤主税	尾形知哉
山田めぐみ	菅原哲文	長谷部寛	小林圭一	原田英明	齋藤健	水戸部秀樹
(向田明夫)	高桑登	渡邊安奈	氏家信行	高木茜	川崎康永	菊池玄輝
	東海林弘和	高柳俊輔	市川光紀	山田めぐみ	小笠原伊之	阿部明彦
	岩崎恒平		後藤枝里子		五十嵐萌	
	安部将平		板橋龍			
	森谷康平					

②センター公開事業

ア 「子どもミュージアム」

やまがたアートライン推進事業の「夏休み子どもミュージアムめぐり」の一環として実施。山形県内の遺跡から見つかった出土品を、児童・生徒の夏季休業中に展示した。

期間 平成26年7月22日（火）～8月22日（金）

会場 （公財）山形県埋蔵文化財センター

内容 展示：「掘った ほった やまがた ～土の中からこんにちは～」

体験：火起こし、弓矢、土製小玉の腕輪作り、模擬発掘体験

入場者数 90名

イ 山形県埋蔵文化財センター参観デー 「やまがた埋文祭り2014」

『東北文化の日』協賛事業として実施。センターを会場に、日ごろの業務の様子を再現したり、考古学の面白さを体験を通して紹介したりした。

期日 平成26年10月26日（日）

会場 （公財）山形県埋蔵文化財センター

内容 考古学体験：整理作業体験、特別展示見学、石器製作実演

体験コーナー：勾玉作り、弓矢体験、等

入場者数 477名



特別展示



勾玉作り体験



復元作業体験



弓矢体験



れきし仮装写真館



スタンプラリー

ウ 「平成26年度発掘調査速報会」

センターが平成26年度に発掘調査を行った延べ6遺跡の調査成果と、福島県震災復興派遣の報告を行った。

期日 平成26年12月14日（日）

会場 山形県生涯学習センター 遊学館

内容 調査の状況をプロジェクターを使って紹介し、出土品の展示・解説を実施した。

入場者数 171名



調査遺跡の発表



福島県震災復興派遣の報告



出土品の展示・解説

③ふるさと考古学講座

ア 上山城共催事業

展示：「上山と周辺の弥生・古墳時代」

期日 平成26年7月19日（土）～8月24日（日）

会場 上山城1F展示ホール

内容 「庚壇遺跡」「百刈田遺跡」「渋江遺跡」「お花山古墳群」「向河原遺跡」
「土矢倉古墳群」「梅野木前1遺跡」

観覧者数 8,366名（期間中の上山城入場者）

体験：「昔の人のくらしを知ろう」

期日 平成26年8月17日（日）

会場 上山城

内容 勾玉作り体験・弓矢体験・縄文服体験・石器製作実演・ギャラリートーク

参加者数 勾玉：48名、弓矢：約80名、縄文服：約50名



勾玉作り体験



弓矢体験



縄文服体験

イ 遺跡を掘ってみよう！

期日 平成26年8月10日（日）

会場 羽黒神社西遺跡(村山市)

内容 遺跡の発掘体験

参加者数 30名

ウ バスで遺跡を見に行こう！

期日 平成26年9月28日（日）

会場 東の杜資料館、羽黒神社西遺跡、宮の前遺跡、中村遺跡縄文公園(中村A遺跡)

内容 遺跡・史跡や発掘現場をバスで巡る体験

参加者数 20名



東の杜資料館



羽黒神社西遺跡



中村遺跡縄文公園

④研修講座

市町村埋蔵文化財担当者研修

期日 平成26年6月5日（木）・11月6日（木）

会場 山形県埋蔵文化財センター・羽黒神社西遺跡・清水遺跡（本年度発掘調査現場）

内容 発掘現場における実地研修を通して、市町村文化財担当者の埋蔵文化財に関する理解を深めると共に、発掘調査技術の向上を図る。

参加者数 延べ39名



文化財写真の撮影



測量機器の取り扱い



基本層序の記録

⑤外部展示

「押出遺跡の新資料展」

期 日 平成26年6月14日～9月24日
会 場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館（休館日 毎週月曜日及び国民の祝日）
内 容 「押出遺跡」の最新出土資料の紹介
（押出遺跡第4・5次発掘調査により出土した新資料及び遺物解説パネルの展示）

「最上のあけぼの 小反遺跡 縄文中期末葉～複式炉が造られた竪穴住居～」

期 日 平成26年9月5日～10月6日
会 場 ゆめりあ ストリートギャラリー（年中無休）
内 容 鮭川村の代表的な遺跡である「小反遺跡」の出土資料を紹介し、地域の遺跡への理解を深めてもらう。
（縄文時代の土器、土製品、石器、石製品、遺跡及び遺物解説パネルの展示）

「足元には文化財展 ～鶴岡市の遺跡から出土した土器～」、体験講座

期 日 平成26年10月31日～11月28日
会 場 鶴岡市櫛引公民館（休館日 年末年始）
内 容 旧櫛引町と鶴岡市内の遺跡である「三礎林E遺跡」「柳沢A遺跡」「野新田遺跡」「矢馳A遺跡」から出土した資料と、併せて西ノ前遺跡出土の「縄文の女神（レプリカ）」を紹介し、地域の遺跡への理解を深めてもらう。
（縄文時代から近世までのさまざまな遺物、遺跡及び遺物解説パネルの展示と、併せて、勾玉作り等体験活動の実施）

「発掘された‘文字’」

期 日 平成26年12月12日～平成27年1月9日
会 場 遊学館 1階ギャラリー（休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜日）
内 容 「今塚遺跡」「梅野木前1遺跡」「亀ヶ崎城跡」から出土した土器、木簡等に記された文字資料を紹介し、地域の遺跡への理解を深めてもらう。
（文字資料が多数出土した遺跡の遺物や時代背景等の分かる遺物、及び、遺構・遺物解説パネルの展示）

「東根の歴史 ～小田島城跡に暮らした人々～」

期 日 平成27年1月16日～2月15日
会 場 山形県身体障がい者保養所 東紅苑（年中無休）
内 容 「縄文時代編」から続く5回シリーズの第5回展示。東根市の代表的な中世遺跡である「小田島城跡」の出土品を紹介し、地域の遺跡への理解を深めてもらう。
（縄文から中近世に至る幅広い年代の出土品、及び展示品の解説パネル等の展示）



うきたむ風土記の丘考古資料



ゆめりあ ストリートギャラリー



鶴岡市櫛引公民館



遊学館 1Fギャラリー



山形県障がい者保養所 東紅苑

⑥学校への協力

No.	派遣校・依頼者名	派遣職員名	実施日	実施内容
1	長井市立西根小学校 校長 高井 耕次	向田 明夫 渡邊 安奈	2014年4月14日	6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、石器・クミ割り体験
2	尾花沢市立尾花沢小学校 校長 阿相 利幸	向田 明夫 森谷 康平 高木 茜 板橋 龍	2014年4月15日	6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、火起こし・弓矢体験
3	米沢市立東部小学校 校長 金 俊次	後藤枝里子 草野 潤平 尾形 知哉 市川 光紀	2014年4月16日	6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、石器・縄文服・弓矢体験
4	山形市立第八小学校 校長 渋谷 健一	向田 明夫 菊池 玄輝 安部 将平	2014年4月17日	6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、石器・弓矢体験
5	山形市立鈴川小学校 校長 黒木 佳昭	後藤枝里子 山田めぐみ 渡辺 和行 長谷部 寛 齋藤 健	2014年4月18日	6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、石器・クミ割り・弓矢体験
6	三川町立押切小学校 校長 遠藤 敬	向田 明夫 川崎 康永	2014年4月21日	6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、石器・クミ割り・弓矢体験
7	東根市立大森小学校 校長 笹原 幸悦	山田めぐみ 林 浩子 菅原 哲文 東海林弘和	2014年4月23日	6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、火起こし・弓矢体験
8	中山町立豊田小学校 校長 長谷川 良和	後藤枝里子 大場 正善	2014年4月24日	6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、火起こし・弓矢体験
9	鶴岡市立藤島小学校 校長 小杉 隆	後藤枝里子 山田めぐみ 水戸部秀樹	2014年4月25日	6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、縄文服・弓矢・クミ割り体験
10	鶴岡市立朝暘第三小学校 校長 栗田 英明	向田 明夫 植松 暁彦 高柳 俊輔 森谷 康平 阿部 明彦	2014年4月28日	6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、石器・火起こし・縄文服・弓矢体験
11	大石町立大石南小学校 校長 渡辺 修	山田めぐみ 岩崎 恒平	2014年4月30日	6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、火起こし・クミ割り体験
12	東根市立小田島小学校 校長 井ノ川 康幸	後藤枝里子 高桑 登	2014年5月1日	6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、石器・縄文服・弓矢体験
13	朝日町立宮宿小学校 校長 牧野 勤	向田 明夫 五十嵐 萌	2014年5月7日	6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、石器・弓矢体験
14	遊佐町立蔵岡小学校 校長 阿彦 裕光	後藤枝里子 山田めぐみ	2014年5月9日	6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、火起こし・弓矢体験
15	村山市立桶岡小学校 校長 佐藤 淳一	山田めぐみ 渡辺 和行 齊藤 主税 五十嵐 萌 森谷 康平	2014年5月12日	6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、火起こし・弓矢体験
16	酒田市立松山小学校 校長 樋渡 善	後藤枝里子 草野 潤平	2014年5月13日	6年社会科：土器や石器に触れてみよう 石器・火起こし・クミ割り・縄文食体験
17	米沢市立六郷小学校 校長 三森 聡	山田めぐみ 菅原 哲文	2014年5月14日	5・6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、火起こし・弓矢体験
18	東根市立長瀬小学校 校長 井上 博人	後藤枝里子 高桑 登	2014年5月16日	6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、火起こし・弓矢体験
19	高畠町立糠野目小学校 校長 青木 敏雄	向田 明夫 尾形 知哉 安部 将平	2014年5月19日	6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、火起こし・弓矢体験
20	河北町立北谷地小学校 校長 奥山 淳一	山田めぐみ 菊池 玄輝	2014年5月21日	6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、弓矢体験
21	寒河江市立西根小学校 校長 安孫子 一彦	向田 明夫 草野 潤平 安部 将平	2014年5月22日	6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、石器・クミ割り・弓矢体験
22	河北町立谷地中部小学校 校長 児玉 康子	後藤枝里子 植松 暁彦 岩崎 恒平	2014年5月23日	6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、弓矢体験
23	庄内町立余目第四小学校 校長 笹原 茂隆	向田 明夫 渡辺 和行	2014年5月26日	6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、クミ割り・弓矢体験
24	寒河江市立幸生小学校 校長 富樫 雅人	山田めぐみ 五十嵐 萌	2014年5月27日	5・6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、アンギン編み・弓矢体験
25	遊佐町立吹浦小学校 校長 岸 純一	後藤枝里子 山田めぐみ	2014年5月30日	6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、石器・火起こし・弓矢体験
26	大江町立左沢小学校 校長 伊藤 順一	向田 明夫 後藤枝里子 山田めぐみ	2014年6月10日	6年社会科：講話「大昔の人々の暮らし」 土器や石器に触れてみよう、火起こし・弓矢体験

⑦来所者

ア.見学・研修等

No	来所者	期 日	人数	内容
1	上市市立南小学校5年生	2014年5月1日	111	施設見学
2	長井市教育委員会	2014年5月12日	3	施設利用
3	山形県立山形盲学校中学部	2014年6月24日	17	施設見学、体験活動（火起こし・縄文食等）
4	上市市立中学校	2014年7月1日～3日	2	職場体験（キャリアスタートウィーク）
5	霞城学園高等学校	2014年7月8日	9	遺跡見学〈山形城三の丸跡14次〉
6	川西町国際交流協会	2014年7月26日	50	遺跡見学・体験活動（発掘体験） 〈八幡一遺跡〉
7	朝日町教育委員	2014年8月8日	6	施設見学
8	東北学院大学	2014年8月18日・19日	4	発掘現場実習〈羽黒神社西遺跡〉
9	上山明新館高等学校1年生	2014年8月26日	1	施設見学
10	秋田県教育庁払田柵跡調査事務所	2014年9月11日	2	施設見学
11	秋田県埋蔵文化財センター	2014年9月18日	2	施設見学
12	村山市立西郷小学校	2014年9月25日	30	遺跡見学〈清水遺跡・羽黒神社西遺跡〉
13	西沼田遺跡公園『西沼田大學』	2014年9月26日	21	施設見学
14	大阪府民	2014年9月26日	1	施設見学
15	川西町教育委員会『文化財めぐり』	2014年9月27日	40	遺跡見学〈八幡一遺跡〉
16	酒田市民	2014年9月29日	1	施設見学
17	鶴岡市鷺畑山古墳調査会	2014年10月6日	3	施設見学
18	上市市立南小学校2年生	2014年10月15日・17日	120	施設見学
19	川西町立大塚小学校	2014年11月7日	9	遺跡見学〈八幡一遺跡〉
20	山形県立米沢興譲館高等学校1年生	2014年11月18日	28	施設見学・施設利用（SSHでの講義・体験）
21	南陽市教育委員会	2014年12月17日～19日	5	施設利用
22	羽黒神社西遺跡発掘作業員	2015年1月22日	4	施設見学
23	山形県立村山特別支援学校中学部1年生	2015年2月13日	12	施設見学、体験活動（弓矢体験・縄文食等）
24	尾花沢市民	2015年2月24日	1	施設見学
25	鶴岡市民	2015年3月11日	1	施設見学

イ.図書閲覧

No	来所者	期 日	閲覧目的
1	東北芸術工科大学 学生A	2014年4月14日	研究のため
2	東北芸術工科大学 学生B	2014年6月13日、8月4日 10月8日、11月13日	卒論執筆のため
3	鶴岡市教育委員会 職員	2014年6月27日、9月29日 2015年1月23日	研究のため
4	上山市民A	2014年7月28日、8月26日 10月24日	研究のため
5	東海大学山形高校 3年生	2014年8月12日	レポート作成のため
6	鶴岡市民	2014年8月18日	研究のため
7	山形市民A	2014年8月19日	小説執筆のため
8	東北芸術工科大学 学生C	2014年9月11日、10月14日	卒論執筆のため
9	富沢遺跡保存館「地底の森ミュージアム」	2014年9月17日・30日	研究のため
10	上山市民B	2014年10月14日	研究のため
11	山形市民B	2015年1月16日	研究のため
12	金沢学院大学 学生	2015年3月16日	卒業論文の研究のため

ウ.資料調査

No.	来所者	期 日	対象遺跡
1	最上町歴史ロマンほっする会	2014年4月25日	水木田遺跡、他最上町出土遺物
2	岩宿博物館	2014年6月10日	うぐいす沢1遺跡、高瀬山遺跡HO3期
3	明治大学黒曜石研究センター	2014年7月9日	お仲間林遺跡
4	東北芸術工科大学 学生A	2014年8月4日	中川原C遺跡
5	東北大学植物園 森林総合研究所 明治大学研究知財戦略機構	2014年8月11日	高瀬山遺跡
6	新潟県埋蔵文化財センター	2014年8月24日	鎌倉上遺跡、向河原遺跡、畑田遺跡
7	仙台市富沢遺跡保存館	2014年9月17日	上大作裏遺跡
8	郡山女子大学短期大学部 准教授	2014年9月20日・21日	お仲間林遺跡、高瀬山遺跡HO3期
9	東北芸術工科大学 学生A	2014年10月8日	野新田遺跡、山居遺跡、落合遺跡
10	西川町民	2014年10月8日	山居遺跡
11	國學院大學 学生	2014年11月4日	かっぱ遺跡、渡戸遺跡、川口遺跡
12	東北芸術工科大学 学生A	2014年11月13日	原の内A遺跡
13	東北芸術工科大学 学生B	2014年11月20日	服部遺跡、藤治屋敷遺跡
14	明治大学 学生	2014年12月8日・9日	吹浦遺跡
15	岩手大学 教授	2015年3月2日	生石2遺跡
16	(公財)郡山市文化・学び振興公社 文化財調査研究センター	2015年3月13日	馬洗場B遺跡、板橋2遺跡

⑧調査説明会

No.	市町村	遺跡名	開催日	遺跡種別	参加者数
1	村山市	羽黒神社西遺跡	2014年11月8日	集落跡	100
	村山市	清水遺跡第7・8次		集落跡	
2	川西町	八幡一遺跡	2014年11月9日	集落跡	40

⑨職員派遣等

No.	派遣職員名	依頼者名	派遣場所	年月日	内容
1	黒坂雅人	山辺町教育委員会	山辺町役場	2014年5月30日	山辺町文化財保護審議会及び委嘱状交付
2	齊藤主税	舟形町教育委員会	舟形町中央公民館	2014年6月12日	第1回舟形町文化財保護委員会及び委嘱状交付
3	齊藤主税	舟形町教育委員会	舟形町中央公民館 他	2014年7月1日	平成26年度国・県指定文化財巡回指導の立会
4	黒坂雅人	山形県地域史研究協議会	新庄市民プラザ	2014年7月6日 ～7日	第40回総会・研究大会 講演「縄文の女神のふるさと」講師
5	向田明夫 後藤枝里子 山田めぐみ	舟形町縄文炎祭実行委員会	舟形町西堀地区 女神の丘	2014年8月2日	縄文炎祭に伴う弓矢飛ばし体験の指導
6	大場正善	北海道遠軽町教育委員会	遠軽町埋蔵文化財センター	2014年8月2日 ～4日	石器作り講習会講師 及び石器作りコンテスト審査員
7	向田明夫 高桑登 後藤枝里子 五十嵐萌 安部将平	尾花沢市教育委員会	尾花沢市はたの里郷土資料館	2014年8月6日	夏休み「子ども縄文体験教室」 講話及び体験学習の指導
8	伊藤邦弘	長井市教育委員会	置賜生涯学習プラザ	2014年9月6日	シンポジウム『1200年前の長井』 「須恵器の生産と供給地について」報告
9	向田明夫	山形市立蔵王第二小学校 第2学年PTA	山形市立蔵王第二小学校体育館	2014年9月7日	親子歴史体験学習の指導
10	向田明夫 後藤枝里子 山田めぐみ	山形市小学校教育研究会 生活科・総合的な学習部会	山形市立鈴川小学校体育館	2014年9月10日	講話「県内埋蔵文化財を小学校教育に活かす」及び体験活動の指導
11	菅原哲文	長井市教育委員会	長井市教育委員会	2014年9月19日	第1回長井市史編集委員会
12	向田明夫 山田めぐみ	山形県朝日少年自然の家	山形県朝日少年自然の家	2014年9月20日	「朝少de縄文食キンダー」 講話及び体験活動の指導
13	黒坂雅人	山辺町文化財保護審議会	山辺町役場	2014年10月17日	山辺町文化財保護審議会研修会
14	向田明夫	山形市立金井小学校 第6学年PTA	山形市立金井小学校体育館	2014年10月17日	親子歴史体験学習の指導
15	植松暁彦	小国町文化財研究会	おぐに開発総合センター	2014年10月26日	『小国町の石器時代を考える』 「小国町の下叶水遺跡の縄文集落について」報告
16	黒坂雅人	山形県高等学校社会科教育研究会	舟形町農林漁業体験実習館	2014年11月5日	講演「最上の考古学について」講師
17	小笠原正道	山形県教育庁文化財・生涯学習課	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	2014年11月7日	うきたむ風土記の丘考古資料館 平成26年度第1回運営協議会
18	向田明夫 五十嵐萌	上山市あざみ学童クラブ	上山市あざみ学童クラブ	2014年11月17日	「大昔のくらしを知ろう！」 体験学習の指導
19	阿部明彦	村山市教育委員会 村山市文化財保護審議会	村山市役所	2014年11月20日	辞令交付及び審議会、村山市文化財保護委員会 面接授業
20	黒坂雅人 小林圭一 水戸部秀樹 菅原哲文 植松暁彦 阿部明彦	放送大学山形学習センター	放送大学山形学習センター	2014年11月29日 ～30日	『国宝縄文女神を生んだ時代を掘る』講師
21	大場正善	(公財) 仙台市民文化事業団 仙台市富沢遺跡保存館	地底の森ミュージアム	2014年12月7日	石器作り実技研修会 講師
22	齊藤主税	舟形町長	舟形町中央公民館	2014年12月17日	国宝「縄文の女神」活用検討委員会
23	伊藤邦弘	山形県立博物館	山形県立博物館	2015年1月24日	平成26年度山形県立博物館考古学講座 講演「置賜地方の集落遺跡」講師
24	水戸部秀樹	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	2015年1月25日	考古資料検討会 「八幡一遺跡」の調査報告
25	菅原哲文	長井市史編集委員会	長井市教育委員会	2015年2月6日	長井市史編集委員会
26	小笠原正道	山形県教育庁文化財・生涯学習課	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	2015年2月10日	うきたむ風土記の丘考古資料館 平成26年度第2回運営協議会
27	植松暁彦	東北日本の旧石器文化を語る会 第28回大会	東北芸術工科大学	2015年2月22日	研究発表「山形県清水西遺跡の調査成果について」
28	氏家信行	古代城柵官衙遺跡検討会	第41回 古代城柵官衙遺跡検討会 資料	2015年2月28日 ～3月1日	資料報告「清水遺跡」の原稿執筆
29	阿部明彦	最上地域観光協議会	新庄市 雪の里情報館	2015年3月6日	平成26年度最上エコポリスガイド養成講座 講師
30	齊藤主税	舟形町教育委員会	舟形町中央公民館	2015年3月17日	国宝「縄文の女神」活用検討委員会
31	菅原哲文	長井市史編集委員会	長井市教育委員会	2015年3月20日	長井市史編集委員会

⑩資料貸出

No.	貸出先	借用目的	貸出期間	資料名	数量
1	山形県教育庁文化財・生涯学習課	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館に常設展示するため	2014年4月1日 ～2015年3月31日	西町田下遺跡、馳上遺跡、荒川2遺跡 太郎水野2遺跡出土遺物	45
2	東根市立大富小学校	授業で使用するため	2014年4月23日 ～4月28日	三軒屋物見台遺跡、高揃南遺跡、三軒屋物見台遺跡、板橋2遺跡出土遺物	16
3	舟形町教育委員会	「縄文の女神」里帰り展での展示で使用するため	2014年4月25日 ～11月30日	西ノ前遺跡出土遺物 同写真資料	84 9
4	山形県立博物館	平成26年度プライム企画展「未来に伝える山形の宝—精神（こころ）と美—」にて展示資料として活用するため	2014年5月21日 ～9月24日	西ノ前遺跡、八つ目久保遺跡、かっぱ遺跡、宮の前遺跡、釜淵C遺跡、高瀬山遺跡、原の内A遺跡、山居遺跡、渡戸遺跡、下叶水遺跡、作野遺跡出土遺物 同写真資料	36 37
5	仙台市富沢遺跡保存館	平成26年度企画展「The Hunter—狩人の石器—」で展示のため	2014年6月16日 ～9月30日	川内袋遺跡出土遺物	480
6	東北芸術工科大学	指導学生の卒業論文のため	2014年6月9日 ～3月20日	東熊野苗畑遺跡土壌サンプル	2箱
7	東北芸術工科大学	指導学生の卒業論文のため	2014年6月23日 ～12月26日	押出遺跡出土木材	87
8	東北芸術工科大学	指導学生の卒業論文のため	2014年6月27日 ～7月24日	服部遺跡、藤治屋敷遺跡出土遺物	26
9	寒河江市教育委員会	寒河江市埋蔵文化財フェアにて展示のため	2014年7月18日 ～8月13日	お仲間林遺跡、弓張平B遺跡、月山沢遺跡出土遺物	65
10	寒河江市教育委員会	寒河江市埋蔵文化財フェアにてパネル展示のため	2014年7月23日 ～8月12日	お仲間林遺跡写真資料・図版資料	10
11	長井市教育委員会	長井市古代の丘資料館企画展「1200年前の長井」の展示と図録作成のため	2014年7月28日 ～11月11日	今塚遺跡、荒川遺跡、西町田下遺跡、上高田遺跡、俵田遺跡、太夫小屋1遺跡、志戸田縄遺跡、馳上遺跡、生石2遺跡、堀端遺跡、址ノ上遺跡、下長橋遺跡、蛇崩窯跡、大塚・西中上遺跡、庚壇遺跡、中落合遺跡、百刈田遺跡出土遺物 同写真資料	143 16
12	岩宿博物館	岩宿博物館第58回企画展『石器が語る時代の変化』において展示及び図録に掲載するため	2014年8月28日 ～2015年1月16日	お仲間林遺跡、熊の前遺跡出土遺物	25
13	郡山女子大学短期大学部	資料観察と論文作成のため	2014年9月22日 ～9月29日	お仲間林遺跡、高瀬山遺跡出土遺物	2848
14	東北芸術工科大学	指導学生の卒業論文のため	2014年10月2日 ～12月5日	服部遺跡、藤治屋敷遺跡出土遺物	22
15	長瀞郷土史研究会 長瀞公民館	平成26年度かりがね祭(長瀞公民館文化祭)にて展示するため	2014年10月24日 ～10月29日	八反遺跡出土遺物	5

①資料掲載許可

No.	貸出先	借用目的	資料名	数量
1	山形市民	同人雑誌『さあべい』第29号に掲載のため	西ノ前遺跡、押出遺跡写真資料・図版資料	7
2	日本経済新聞社	新聞に掲載のため	西ノ前遺跡図版資料	1
3	株式会社アルカ	日本考古学協会総会資料及びHPへ掲載のため	押出遺跡4・5次石器実測図	12
4	仙台市富沢遺跡保存館	平成26年度企画展「The Hunter－狩人の石器－」の展示における印刷物に掲載のため	川内袋遺跡出土遺物	480
5	公益財団法人美育文化協会 「美育文化ポケット」編集部	雑誌掲載のため	西海淵遺跡写真資料	2
6	山形市教育委員会	嶋遺跡公園四阿内の遺跡展示パネルに掲載するため	梅野木前1遺跡、物見台遺跡、清水新田遺跡、下槇遺跡、興屋川原遺跡写真資料	6
7	株式会社かみゆ	イカロス出版『全国国分寺跡をゆく(仮)』に掲載のため	堂の前遺跡第1次写真資料	1
8	うきたむ風土記の丘考古資料館	第22回企画展の図録及びパネルにて使用するため	百川田遺跡写真資料	14
9	国立歴史博物館	総合誌『歴博』187号に掲載のため	川口遺跡、渡戸遺跡写真資料	2
10	酒田市教育委員会	酒田市教育委員会刊行『【ジュニア版】酒田の歴史』に掲載のため	俵田遺跡、泉森窯跡、亀ヶ崎城跡写真資料等	6
11	山形大学名誉教授	築地書館「日本の土」に掲載のため	清水遺跡写真資料	1
12	酒田市教育委員会	酒田市教育委員会刊行『【ジュニア版】酒田の歴史』に掲載のため	俵田遺跡写真資料	2
13	一般社団法人日本考古学協会	『日本考古学協会年報』66（2013年度版）巻頭写真に掲載のため	八反遺跡写真資料	3
14	株式会社ニューサイエンス社	『弥生土器』（考古学調査ハンドブックシリーズ）に掲載のため	百川田遺跡写真資料	1
15	酒田市教育委員会	酒田市教育委員会刊行『【ジュニア版】酒田の歴史』に掲載のため	生石2遺跡、関B遺跡、生石4遺跡、堂の前遺跡写真資料等	5
16	新潟市文化財センター	企画展「蒲原の王墓 古津八幡山古墳と豪族の屋敷」でのパネル展示、およびパンフレットへの掲載のため	南原遺跡写真資料	3

②出版物

ア.普及・業務報告

書名	発行年月日
埋文やまがた第53号	2014年9月30日
埋文やまがた第54号	2015年1月31日

イ.調査説明会資料

書名	発行年月日
羽黒神社西遺跡	2014年11月8日
清水遺跡第7・8次	2014年11月8日
八幡一遺跡	2014年11月9日

ウ.調査報告書

シリーズ No.	書名	発行年月日
215	西谷地b遺跡第1・2次発掘調査報告書	2015年3月31日
216	沼袋遺跡発掘調査報告書	〃
217	田向遺跡第1・2次発掘調査報告書	〃
218	田向2遺跡第1・2次発掘調査報告書	〃
219	経塚森遺跡発掘調査報告書	〃
220	清水西遺跡発掘調査報告書	〃
221	沼田1遺跡・沼田2遺跡発掘調査報告書	〃
222	道出遺跡第1・2次発掘調査報告書	〃
223	元宿北遺跡発掘調査報告書	〃

エ.発掘調査速報会資料

資料名	発行年月日
平成26年度発掘調査速報会	2014年12月14日

オ.その他

資料名	発行年月日
平成25年度 年報	2014年5月1日
研究紀要 第7号	2015年3月31日

⑬ホームページ

主な項目と内容は以下のとおりです。

発掘調査遺跡一覧	発掘調査遺跡や整理作業中の遺跡の紹介
発掘調査速報	調査期間中、遺跡ごとの調査状況を毎週更新して紹介
イベント情報	ふるさと考古学講座、調査説明会、外部展示、各種イベント情報の提供
センター刊行物案内	調査報告書、広報誌などの刊行物の紹介
学校教育への協力	出前授業の紹介、埋蔵文化財を活かした授業のアイデアなどの提供とその状況など
埋文やまがた	広報誌「埋文やまがた」を紹介するとともに、これまでに刊行したバックナンバーの閲覧
センター概要	センターの紹介や、情報公開制度に基づいた、センター情報の提供

(3) 情報処理

収蔵図書データベース 新収蔵図書 2,330冊 のデータ入力実施(File Maker Pro使用)

ISSN 1341-397X

年 報

平成26年度

2015年5月1日 発行

発 行 公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター
〒999-3246
山形県上山市中山字壁屋敷5608番地
Tel 023-672-5301(代)
印 刷 (株)〇〇印刷



Yamagata Archaeology Center

当センターの記章として
いるこの図柄は、

Yamagata
Archaeology
Center

の3つの頭文字をあしらっ
たものです。特に**Y**は、国
宝「縄文の女神」をイメー
ジしています。